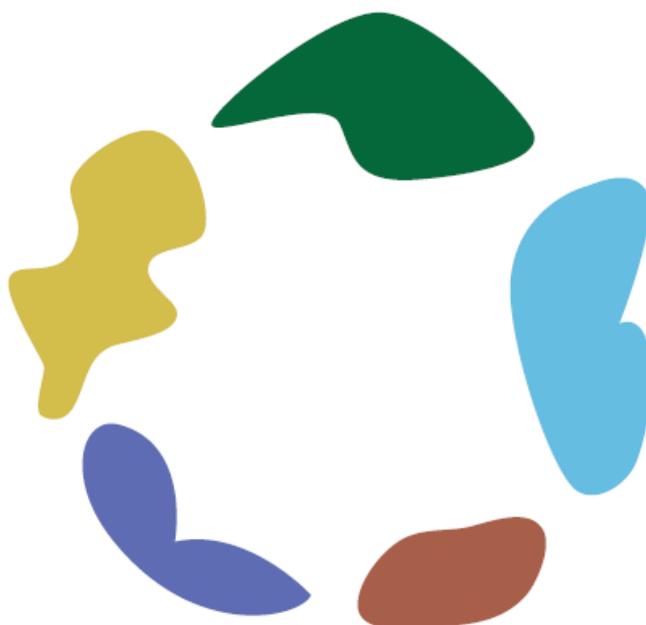


知 床 白 書



平成22年度 知床世界自然遺産地域年次報告書

(素案)

知床世界自然遺産地域科学委員会事務局

知床世界自然遺産地域連絡会議事務局

環境省釧路自然環境事務所

林野庁北海道森林管理局

北 海 道

目 次

I 知床世界自然遺産地域の管理について	
1. 管理の目的と手段	○
2. 管理の対象分野と目標	○
3. 目標達成に向けて講じる具体的対策	○
II 知床世界自然遺産地域における課題	○
III 平成 22 年度 知床世界自然遺産地域における主な動き	○
IV 平成 22 年度知床世界自然遺産地域の利用状況	
1. 知床世界自然遺産地域におけるレクリエーション利用の状況	○
2. 知床世界自然遺産地域における第一次産業の状況	○
V 平成 22 年度 知床世界自然遺産地域管理計画の実施状況	
1. 知床地域におけるハード事業の実施状況	○
2. 知床地域の保全管理（ソフト事業）の状況	○
3. 各種会議等の開催状況	○
VI 平成 22 年度 管理実施の総合評価	○

I 知床世界自然遺産地域の管理について

1. 管理の目的と手段

○管理の目的

知床世界自然遺産地域の価値は、海洋生態系と陸上生態系の相互関係の顕著な見本であり、多様な野生生物を含む原生的な自然環境が維持されていることである。

管理の目的は、遺産地域の価値を後世に引き継ぐために維持し、地域の主要な産業である観光を始めとするレクリエーション利用と自然環境保全の両立、及び水産業による水産資源の持続可能な利用を図ることである。

○管理の手段

遺産地域では5つの手段を用いて管理を実施している。

1) 地域との連携・協働による管理

日常的に遺産地域の保全や利用に関わっている地元自治体、関係団体及び地域住民による現場の視点を遺産地域の管理に活かしていくため、連絡調整の場として「知床世界自然遺産地域連絡会議」を設置し、多様な主体の参画による遺産地域の管理を実施している。

2) 順応的管理

遺産地域の生態系は複雑で将来予測が不確実であるため、生態系に関するモニタリングや調査研究を実施し、その結果に応じて遺産地域の管理方法を柔軟に見直す必要がある。科学的な立場から助言を得る機関として「知床世界自然遺産地域科学委員会」を設置し、順応的な管理を進めている。

3) 陸域及び海域の統合的管理

遺産地域を取り巻く陸域と海域の生態系の連続性、健全性をモニタリングし、自然環境に影響を及ぼすような変化の兆候が認められた場合には、原因の分析と環境回復に向けた対策を検討し、所要の措置を講じるなど、陸域と海域の生態系の保全部管理を統合的に実施することとし、そのための連携・協力体制の構築、情報交換、人材の育成や確保を図っている。

4) 地域区分による管理

遺産地域の原生的な自然環境が保全されている地域（A 地区）については、将来にわたり厳正な保護管理を図る地域とし、原則として人手を加えず自然の推移に委ねることを基本とし、観光や漁業活動等の人為的活動と共存する形で自然環境が維持されている地域（B 地区）については、自然環境の保全と遺産地域の価値を損なわない持続可能な観光や漁業活動等の利用との両立を図ることとし、地区に応じた管理を実施している。

5) 広域的な視点による管理

遺産地域の生態系と共通性や連続性を有する遺産地域の隣接地域や、遺産地域の生態系に影響を及ぼす地球規模での気候変動等についても視野に入れつつ、管理を行っている。

2. 管理対象の分野と管理方針

管理計画では、管理の目標を達成するために、取り組むべき6つの分野を定め、分野ごとに管理方針を設定している。

1) 陸上生態系及び自然景観の保全

原則として自然状態における遷移に委ねることを基本とし、特定の生物や人為的活動が生態系に著しく悪影響を及ぼしている場合は、これらの影響を緩和させるための有効な対策を講じていく。

2) 海域の保全

「知床世界自然遺産地域多利用型統合的・海域管理計画」に基づき、海洋環境と提示生産、沿岸環境、魚介類、海棲哺乳類、海鳥、海ワシ類、海洋レクリエーションについて管理を行う。

3) 海域と陸域の相互関係の保全

河川環境が、遡河性の魚類をはじめ多様な生物を育み、水循環、物質循環を通じて、海洋生態系と陸上生態系を有機的に繋ぐ重要な役割を有しているため、河川環境の保全及びサケ科魚類の持続的な利用と保全を推進することで海域と陸域の相互関係の保全を図る。

4) 自然の適切な利用

遺産地域内のレクリエーション利用については、世界自然遺産としての価値を将来にわたって損なうことのないようにすることが必要であり、遺産地域では原生的な自然環境を保存・保全しつつ人々に感銘を与える質の高い利用機会を提供する。

5) 気候変動の影響への対応

北半球で最も低緯度の海水域であることを一つの特徴とする遺産地域にも影響を与えることが懸念されていることから、遺産地域で実行可能な気候変動の影響への適応策を検討し、実施する。

6) 情報の共有と普及啓発

遺産地域の適切な管理を行うためには、地域住民、観光等による利用者並びに国際機関や他の保護地域の関係者といった対象ごとに効果的な情報の共有と普及啓発の手段を検討する。

3. 管理方針に基づく管理目標

管理計画では、主に分野ごとの管理方針に基づいて、64項目の具体的な管理目標を定めている（別表1）。各対象分野等で設定されている管理目標の数は以下のとおりである。

1) 陸上生態系及び自然景観の保全……26項目

①植物	②動物	③自然景観の保全	④外来種への対応
7項目	14項目（以下の項目を含む）	2項目	3項目
	エゾシカ		
	2項目		
	ヒグマ		
	2項目		
	シマフクロウ		
	3項目		
	オジロワシ・オオワシ		
	2項目		

Ⅱ 知床世界自然遺産地域における課題

○エゾシカの個体数増加に伴う環境変化への対応

高密度のエゾシカによる採食圧は知床世界自然遺産地域（以下「遺産地域」という）の環境に様々な影響をもたらしている。越冬地を中心とした樹皮食いによる特定樹種の激減と更新不良、林床植生の現存量低下と多様性の減少、そして遺産地域の特徴的な植生である海岸性の植生群落とそれに含まれる希少植物の減少などである。エゾシカの高密度状態がさらに長期化する場合、希少植物種や個体群の絶滅、高山植生への影響、急傾斜地の土壌浸食等が懸念されている。

○海洋資源の持続可能な利用

主要な水産資源については、漁業関係法令や漁業者・漁業団体の自主的な取組により、資源の管理・利用に関する規制や資源の増殖などが行われており、資源の状況と漁獲のバランスを保ち、持続的な利用が可能となるよう多大な努力が払われてきている。

根室海峡におけるスケトウダラの漁獲量については、1989年の漁獲量の1割以下の低水準で推移しており、平成22年度の漁獲量は過去最低を記録するなど、資源量の減少が懸念されている。根室海峡においては、ロシアのトロール船がスケトウダラの同一系群を漁獲しており、漁業資源及び海域生態系への影響が懸念されているため、可能な限りロシアの資源管理等に関する情報収集等を行っていくとともに、海洋生態系保全等に関する情報交換などの働きかけが必要である。

○ヒグマと地域住民との軋轢の解消

○レクリエーション利用と自然環境保全の両立

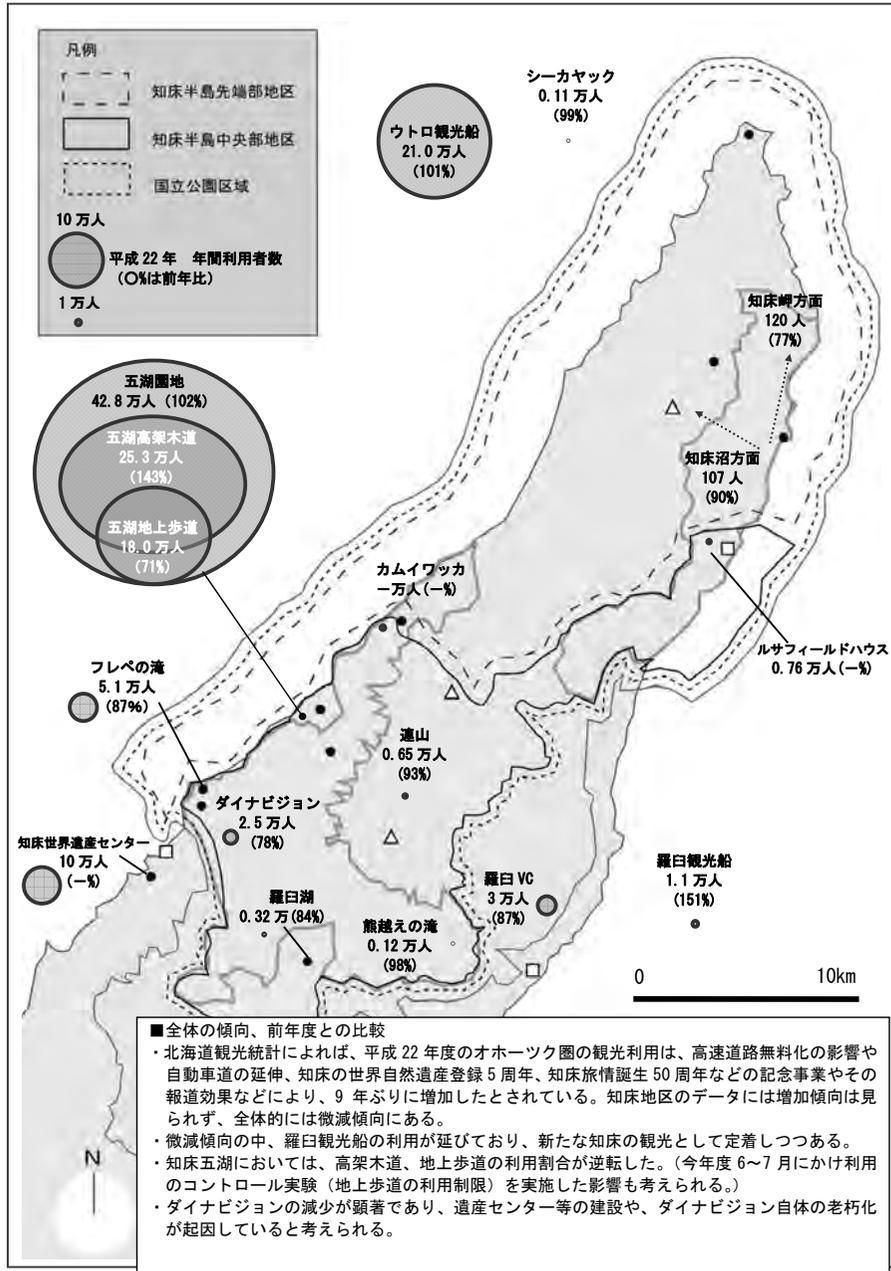
Ⅲ 平成 22 年度 知床世界自然遺産地域における主な動き

1. 知床世界自然遺産登録 5 周年記念
2. 知床五湖における利用調整地区制度の導入と高架木道の全線開通
3. 適正利用・エコツアーリズム検討会議の立ち上げ
4. ヒグマ保護管理方針検討会議の立ち上げ
5. 知床半島におけるエゾシカ個体数調整の進展

IV 平成 22 年度知床世界自然遺産地域の利用状況

1. 知床世界自然遺産地域におけるレクリエーション利用の状況

知床世界自然遺産地域の利用状況

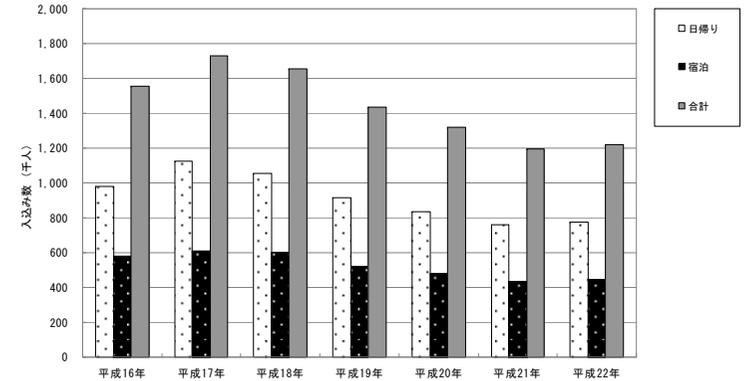


2) 斜里町の観光入込み数

表：斜里町の観光客入込み数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成16年	①日帰り利用者数(人) 4,206	79,149	51,953	12,924	37,080	71,552	132,369	223,980	174,704	167,221	8,311	14,889	978,338	
	②宿泊利用者数(人) 16,939	45,521	33,128	17,813	54,900	64,406	75,369	67,726	75,924	66,539	25,219	14,759	578,243	
	③入込み数合計(人) 21,145	124,670	85,081	30,737	91,980	135,958	207,738	311,706	250,628	233,760	33,530	29,648	1,556,581	
平成17年	①日帰り利用者数(人) 4,666	87,581	55,140	12,117	31,719	70,421	140,630	273,256	218,380	206,918	9,941	13,047	1,123,816	
	②宿泊利用者数(人) 18,793	50,371	35,160	16,701	46,963	63,388	80,073	93,819	85,084	74,762	30,166	12,933	608,213	
	③入込み数合計(人) 23,459	137,952	90,300	28,818	78,682	133,809	220,703	367,075	303,464	281,680	40,107	25,980	1,732,029	
平成18年	①日帰り利用者数(人) 4,222	71,258	48,562	12,542	36,627	77,741	139,982	245,930	202,246	194,627	8,495	13,100	1,055,332	
	②宿泊利用者数(人) 17,004	40,983	30,966	19,778	54,230	75,379	80,894	92,670	78,798	70,321	25,778	14,115	601,116	
	③入込み数合計(人) 21,226	112,241	79,528	32,320	90,857	153,120	220,876	338,600	281,044	264,948	34,273	27,215	1,656,448	
平成19年	①日帰り利用者数(人) 4,004	64,132	37,154	11,348	29,754	64,642	125,166	228,383	172,566	159,275	7,960	11,828	916,212	
	②宿泊利用者数(人) 16,126	35,274	23,692	17,896	44,054	62,678	72,332	86,244	67,234	57,548	24,156	12,745	519,979	
	③入込み数合計(人) 20,130	99,406	60,846	29,244	73,808	127,320	197,498	314,627	239,800	216,823	32,116	24,573	1,436,191	
平成20年	①日帰り利用者数(人) 4,117	64,533	37,276	9,519	28,654	57,896	105,576	199,531	162,979	147,650	8,599	11,061	837,391	
	②宿泊利用者数(人) 16,581	35,495	23,770	15,012	42,426	56,137	61,011	75,349	63,499	53,348	26,098	11,919	480,645	
	③入込み数合計(人) 20,698	100,028	61,046	24,531	71,080	114,033	166,587	274,880	226,478	200,998	34,697	22,980	1,318,036	
平成21年	①日帰り利用者数(人) 3,869	52,217	38,409	9,735	23,867	44,137	97,290	186,441	150,146	132,535	7,735	12,325	758,706	
	②宿泊利用者数(人) 15,583	28,721	24,493	15,354	35,338	42,796	56,223	70,406	58,499	47,887	23,476	16,104	434,880	
	③入込み数合計(人) 19,452	80,938	62,902	25,089	59,205	86,933	153,513	256,847	208,645	180,422	31,211	28,429	1,193,586	
平成22年	①日帰り利用者数(人) 4,025	57,871	37,675	9,769	22,241	44,695	100,591	195,918	153,795	131,489	7,231	9,494	774,794	
	②宿泊利用者数(人) 20,592	34,493	24,025	15,409	32,931	43,337	58,146	73,985	59,921	47,509	21,945	12,406	444,699	
	③入込み数合計(人) 24,617	92,364	61,700	25,178	55,172	88,032	158,737	269,903	213,716	178,998	29,176	21,900	1,219,493	
合計前年比	127%	114%	98%	100%	93%	101%	103%	105%	102%	99%	93%	77%	102%	
合計世界遺産登録前比	116%	74%	73%	82%	60%	65%	76%	87%	85%	77%	87%	74%	78%	平成16年比
合計ピーク年比	105%	67%	68%	87%	70%	66%	72%	74%	70%	64%	73%	84%	70%	平成17年比

グラフ：斜里町の観光客入込み数年次変化



出典：斜里町商工観光課

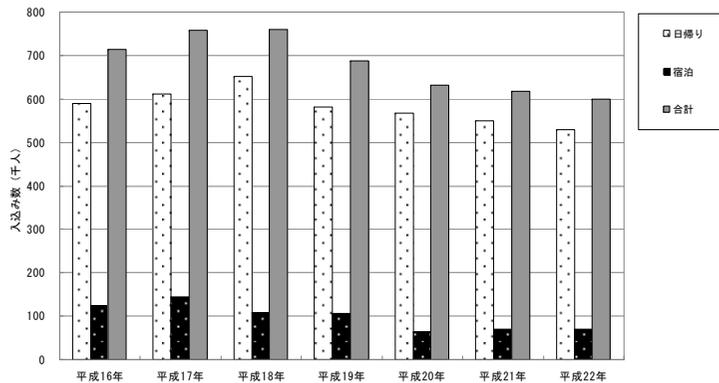
コメント：ほぼ前年並の利用となっている。

3) 羅臼町の観光入込み数

表：羅臼町の観光客入込み数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考	
平成16年	①日帰り利用者数(人)	2,811	4,546	4,097	8,471	72,902	47,037	125,684	157,165	104,911	55,423	3,707	3,563	590,317	
	②宿泊利用者数(人)	797	2,324	1,862	1,711	2,735	6,500	25,878	43,269	27,109	7,761	2,225	1,855	124,026	
	③入込み数合計(人)	3,608	6,870	5,959	10,182	75,637	53,537	151,562	200,434	132,020	63,184	5,932	5,418	714,343	
平成17年	①日帰り利用者数(人)	2,244	3,842	4,963	9,891	55,893	60,498	146,037	152,247	111,079	57,000	4,510	4,195	612,399	
	②宿泊利用者数(人)	1,586	2,903	1,633	1,129	2,227	5,701	27,058	59,587	29,790	10,053	1,899	1,587	145,153	
	③入込み数合計(人)	3,830	6,745	6,596	11,020	58,120	66,199	173,095	211,834	140,869	67,053	6,409	5,782	757,552	
平成18年	①日帰り利用者数(人)	2,359	4,346	5,670	10,122	57,038	63,603	158,884	169,075	111,272	61,266	3,874	3,871	651,380	
	②宿泊利用者数(人)	1,544	2,478	1,324	952	2,278	4,194	23,005	44,978	15,986	6,416	2,555	1,987	107,697	
	③入込み数合計(人)	3,903	6,824	6,994	11,074	59,316	67,797	181,889	214,053	127,258	67,682	6,429	5,858	759,077	
平成19年	①日帰り利用者数(人)	2,428	3,809	5,237	9,388	54,787	63,479	114,072	143,533	111,572	63,175	4,990	4,289	580,759	
	②宿泊利用者数(人)	1,428	3,129	1,590	1,251	2,319	3,830	20,454	45,973	17,406	5,452	1,692	1,481	106,005	
	③入込み数合計(人)	3,856	6,938	6,827	10,639	57,106	67,309	134,526	189,506	128,978	68,627	6,682	5,770	686,764	
平成20年	①日帰り利用者数(人)	1,807	3,811	6,272	11,284	63,339	49,019	108,762	148,595	103,929	62,043	4,735	4,041	567,637	
	②宿泊利用者数(人)	2,031	2,876	2,174	1,107	1,743	3,517	6,184	25,290	12,201	3,588	1,807	1,610	64,128	
	③入込み数合計(人)	3,838	6,687	8,446	12,391	65,082	52,536	114,946	173,885	116,130	65,631	6,542	5,651	631,765	
平成21年	①日帰り利用者数(人)	1,924	3,421	6,327	9,928	62,940	47,783	108,315	133,944	108,228	57,569	4,846	3,690	548,915	
	②宿泊利用者数(人)	1,843	2,774	1,551	1,624	2,348	3,499	5,833	28,456	14,569	3,464	1,680	1,654	69,395	
	③入込み数合計(人)	3,867	6,195	7,878	11,552	65,288	51,282	114,148	162,400	122,797	61,033	6,526	5,344	618,310	
平成22年	①日帰り利用者数(人)	1,559	2,062	5,267	9,016	62,328	44,897	107,053	150,027	83,415	55,912	3,936	3,293	528,765	
	②宿泊利用者数(人)	2,069	3,735	2,544	2,056	2,395	4,453	5,859	27,863	12,393	3,154	2,331	2,023	70,875	
	③入込み数合計(人)	3,628	5,797	7,811	11,072	64,723	49,350	112,912	177,890	95,808	59,066	6,267	5,316	599,640	
合計前年比	94%	94%	99%	96%	99%	96%	99%	110%	78%	97%	96%	99%	97%		
合計世界遺産登録前比	101%	84%	131%	109%	86%	92%	74%	89%	73%	93%	106%	98%	84%	平成16年比	
ピーク年比	93%	85%	112%	100%	109%	73%	62%	83%	75%	87%	97%	91%	79%	平成18年比	

グラフ：羅臼町の観光客入込み数年次変化



出典：羅臼町水産商工観光課

コメント：ほぼ前年並の利用となっている。

(2) 知床半島中央部地区の利用状況

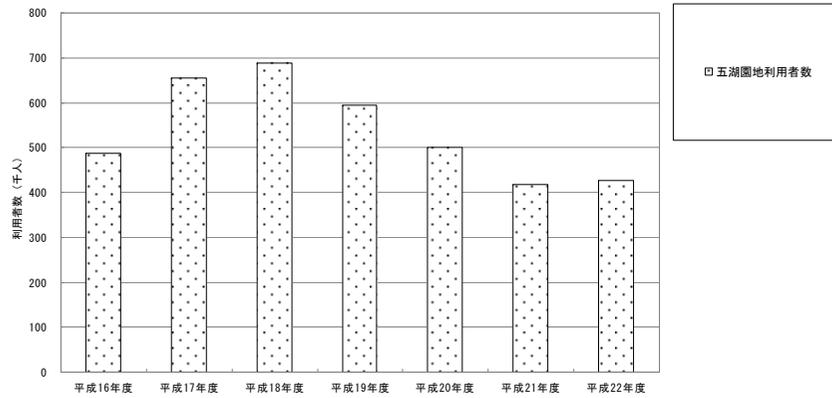
1) 知床五湖地域

a. 五湖園地全体利用者数(駐車台数+シャトルバス利用)

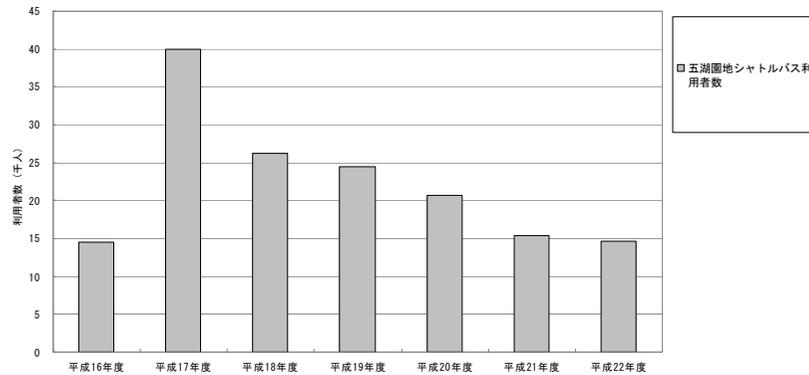
表：五湖園地全体利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考		
平成16年	①駐車場利用台数(台)	640	7,186	6,474	10,843	17,082	14,569	8,704	143	65,641		
	②駐車場利用(人)	4,285	70,361	60,777	69,454	98,500	97,692	70,688	1,288	473,045	車種別定員にて算出	
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	-	17,226	-	-	-	-	17,226	運行：8月1日～8月23日
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	-	14,522	-	-	-	-	14,522	③×0.843(五湖利用者)
	⑤利用者数合計(人)	4,285	70,361	60,777	69,454	113,022	97,692	70,688	1,288	487,567	②+④	
平成17年	①駐車場利用台数(台)	490	6,107	8,767	15,034	21,741	17,449	12,043	1,167	82,798	7月世界遺産登録	
	②駐車場利用(人)	3,749	59,333	75,344	97,751	122,386	134,254	113,607	9,009	615,433	車種別定員にて算出	
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	9,904	26,918	10,624	-	-	-	47,446	運行：7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	8,349	22,692	8,956	-	-	-	39,997	③×0.843(五湖利用者)
	⑤利用者数合計(人)	3,749	59,333	75,344	106,100	145,078	143,210	113,607	9,009	655,430	②+④	
平成18年	①駐車場利用台数(台)	627	8,401	10,675	16,259	20,867	16,454	10,234	1,036	84,553		
	②駐車場利用(人)	3,448	74,638	108,043	118,480	119,728	130,036	98,808	7,805	660,986	車種別定員にて算出	
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	6,793	17,369	6,919	-	-	-	31,081	運行：7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	5,726	14,642	5,833	-	-	-	26,201	③×0.843(五湖利用者)
	⑤利用者数合計(人)	3,448	74,638	108,043	124,206	134,370	135,869	98,808	7,805	687,187	②+④	
平成19年	①駐車場利用台数(台)	1,185	7,096	8,612	12,794	20,304	14,975	9,297	534	74,797		
	②駐車場利用(人)	6,023	61,413	87,562	95,919	118,291	111,504	85,037	4,743	570,492	車種別定員にて算出	
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	6,707	17,046	5,261	-	-	-	29,014	運行：7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	5,654	14,370	4,435	-	-	-	24,559	③×0.843(五湖利用者)
	⑤利用者数合計(人)	6,023	61,413	87,562	101,573	132,661	115,939	85,037	4,743	594,951	②+④	
平成20年	①駐車場利用台数(台)	1,099	6,563	7,916	10,956	16,541	13,759	8,018	683	65,535		
	②駐車場利用(人)	6,264	54,848	75,046	79,642	95,035	95,323	70,561	4,263	480,982	車種別定員にて算出	
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	5,293	14,637	4,607	-	-	-	24,537	運行：7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	4,462	12,339	3,884	-	-	-	20,685	③×0.843(五湖利用者)
	⑤利用者数合計(人)	6,264	54,848	75,046	84,104	107,374	99,207	70,561	4,263	501,667	②+④	
平成21年	①駐車場利用台数(台)	559	6,919	7,981	10,898	16,045	13,519	6,349	455	62,725		
	②駐車場利用(人)	2,931	45,026	63,521	68,836	82,844	84,436	50,296	4,219	402,109	車種別定員にて算出	
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	3,949	10,351	3,988	-	-	-	18,288	運行：7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	3,329	8,726	3,362	-	-	-	15,417	③×0.843(五湖利用者)
	⑤利用者数合計(人)	2,931	45,026	63,521	72,165	91,570	87,798	50,296	4,219	417,526		
平成22年	①駐車場利用台数(台)	682	6,993	8,730	12,975	18,172	14,159	8,426	470	70,607		
	②駐車場利用(人)	3,430	42,711	62,869	73,914	86,666	84,141	55,448	3,994	413,173	車種別定員にて算出	
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	4,000	9,773	3,619	-	-	-	17,392	運行：7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	3,372	8,239	3,051	-	-	-	14,662	③×0.843(五湖利用者)
	⑤利用者数合計(人)	3,430	42,711	62,869	77,286	94,905	87,192	55,448	3,994	427,835		
合計前年比	117%	95%	99%	107%	104%	99%	110%	95%	102%			
合計世界遺産登録前比	80%	61%	103%	111%	84%	89%	78%	310%	88%	平成16年比		
合計ピーク年比	99%	57%	58%	62%	71%	64%	56%	51%	62%	平成18年比		

グラフ：五湖園地全体利用者数年次変化



グラフ：五湖園地シャトルバス利用者数年次変化



出典：自然公園財団及び斜里バス（株）

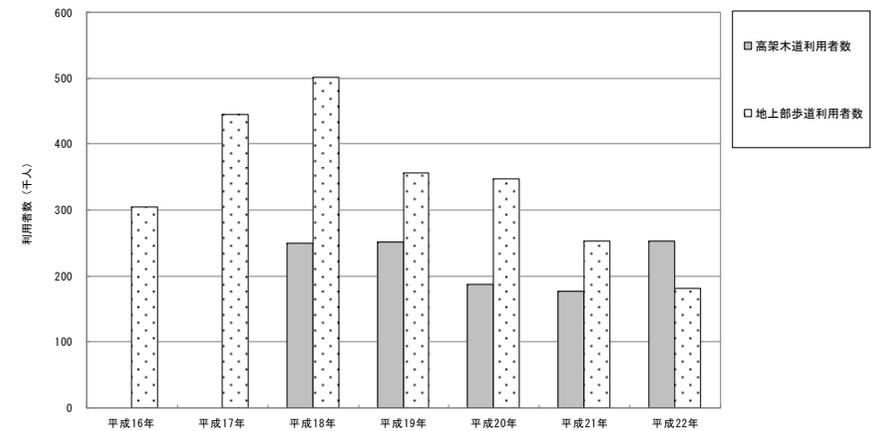
コメント：ほぼ前年並の利用となっている。

b. 高架木道・地上部歩道利用者数(五湖カウンター調査)

表：高架木道・地上部歩道利用者数

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成16年	①高架木道利用者数(人)	-	-	-	-	-	-	-	-	供用前につき無し
	②地上部歩道利用者数(人)	33,866	14,663	32,374	88,512	75,038	54,914	5,318	304,685	退場数(全面閉鎖43日間)
平成17年	①高架木道利用者数(人)	-	-	-	-	-	-	-	-	供用前につき無し
	②地上部歩道利用者数(人)	29,305	42,380	62,263	103,930	107,405	84,341	14,311	443,935	退場数(全面閉鎖9日間)
平成18年	①高架木道利用者数(人)	31,340	38,352	42,897	44,680	47,949	37,540	7,313	250,071	退場数 新高架木道供用(現蓮山展望台まで)
	②地上部歩道利用者数(人)	46,668	74,653	87,508	106,308	101,894	73,314	10,159	500,504	退場数(全面閉鎖6日間)
平成19年	①高架木道利用者数(人)	24,263	52,858	59,283	40,980	37,651	31,005	5,443	251,483	退場数
	②地上部歩道利用者数(人)	42,048	33,566	37,040	94,758	82,791	60,907	5,828	356,938	退場数(全面閉鎖40日間)
平成20年	①高架木道利用者数(人)	17,919	24,601	33,078	40,303	35,351	31,457	5,342	188,051	退場数
	②地上部歩道利用者数(人)	35,454	48,532	55,795	81,277	74,165	45,988	6,728	347,938	退場数(全面閉鎖17日間)
平成21年	①高架木道利用者数(人)	20,755	25,013	32,870	37,006	34,442	20,868	5,092	176,046	2つのカウンターの入退数の平均 高架木道延長(オコック展望台まで)
	②地上部歩道利用者数(人)	26,049	35,653	39,360	63,563	55,891	29,391	3,451	253,358	退場数(全面閉鎖12日間)
平成22年	①高架木道利用者数(人)	24,298	36,324	55,271	53,824	43,734	32,559	6,527	252,537	退場数 高架木道延長(湖畔展望台まで)
	②地上部歩道利用者数(人)	17,078	24,710	21,134	44,000	44,352	25,790	3,481	180,545	退場数(全面閉鎖30日間)
前年比	①高架木道	117%	145%	168%	145%	127%	156%	128%	143%	
前年比	②地上部歩道	66%	69%	54%	69%	79%	88%	101%	71%	
世界遺産登録前比	②地上部歩道	50%	169%	65%	50%	59%	47%	65%	59%	平成16年比
ピーク年比	①高架木道	100%	69%	93%	131%	116%	105%	120%	100%	平成19年比
ピーク年比	②地上部歩道	37%	33%	24%	41%	44%	35%	34%	36%	平成18年比

グラフ：高架木道・地上部歩道利用者数年次変化



出典：環境省 カウンター調査

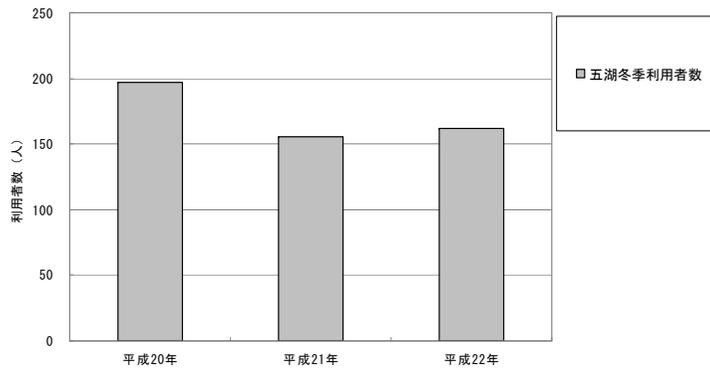
コメント：地上歩道は前年比39%減。高架木道は前年比43%増。(6月19日～7月19日まで五湖の利用のコントロール実験を実施し、地上歩道の3～5湖の立入りが規制。)

c. 冬季利用者数

表：冬季利用者数

	グループ数	利用者数	備考
平成20年	49	197	平成20年2月1日～3月22日 51日間 利用者数には引率者も含む
平成21年	46	156	平成21年1月31日～3月22日 51日間 利用者数には引率者も含む
平成22年	46	162	平成22年1月30日～3月22日 52日間 利用者数には引率者も含む
前年比	100%	104%	

グラフ：冬季利用者数年次変化



出典：斜里町商工観光課

コメント：ほぼ前年並の利用となっている。

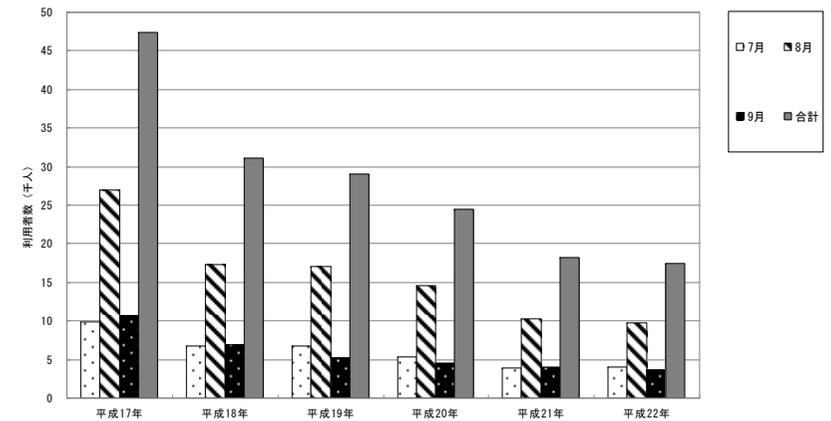
2) カムイワッカ地域

a. シャトルバス利用者数

表：シャトルバス利用者数（カムイワッカ以外の利用を含む）

		7月	8月	9月	計	備考
平成17年	シャトルバス利用 (人)	9,904	26,918	10,624	47,446	
平成18年	シャトルバス利用 (人)	6,793	17,369	6,919	31,081	
平成19年	シャトルバス利用 (人)	6,707	17,046	5,261	29,014	カムイワッカ監視員カウント数13,802人
平成20年	シャトルバス利用 (人)	5,293	14,637	4,607	24,537	カムイワッカ監視員カウント数12,394人
平成21年	シャトルバス利用 (人)	3,949	10,351	3,988	18,288	カムイワッカ監視員カウント数9,378人
平成22年	シャトルバス利用 (人)	4,000	9,773	3,619	17,392	カムイワッカ監視員カウント数9,754人
前年比		101%	94%	91%	95%	
ピーク年比		40%	36%	34%	37%	平成17年比

グラフ：シャトルバス利用者数の年次変化（カムイワッカ以外の利用を含む）



出典：カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

コメント：ほぼ前年並の利用となっている。

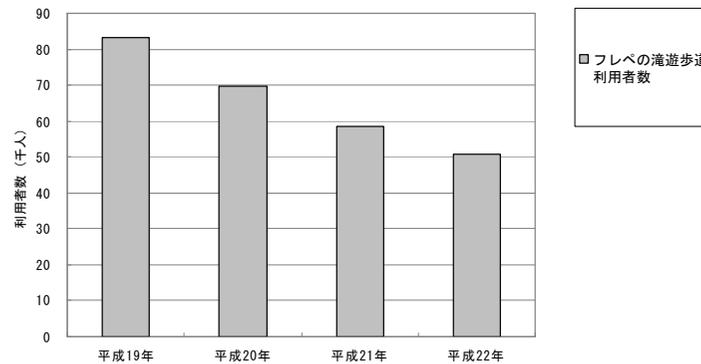
3) ホロボツ地区

a. フレペの滝利用者数（フレペの滝カウンター調査）

表：フレペの滝利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成18年 利用者数 (人)	—	—	8,911	17,604	23,779	18,443	11,088	—	—	退場数 調査期間が短いため参考値
平成19年 利用者数 (人)	1,365	5,327	11,066	17,757	21,719	14,390	9,275	2,639	83,538	退場数
平成20年 利用者数 (人)	976	4,873	9,346	12,348	18,230	12,901	8,503	2,689	69,866	退場数
平成21年 利用者数 (人)	1,545	5,292	6,644	11,031	14,677	12,515	5,124	1,560	58,388	入場数 入場者数の方が多いため
平成22年 利用者数 (人)	883	3,584	5,083	9,433	13,093	11,789	5,487	1,538	50,889	退場数
前年比	57%	68%	77%	86%	89%	94%	107%	99%	87%	
ピーク年比	65%	67%	46%	53%	60%	82%	59%	58%	61%	平成19年比

グラフ：フレペの滝利用者数年次変化



出典：環境省 カウンター調査

コメント：前年比23%減。

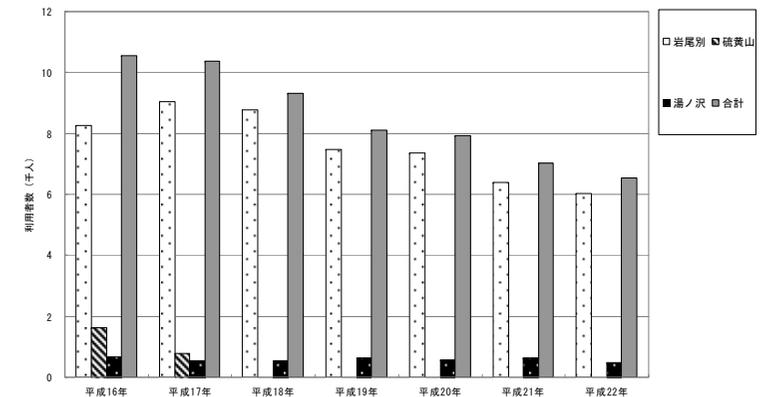
4) 知床連山地域

a. 連山登山道利用者数（岩尾別、湯ノ沢カウンター調査）

表：知床連山利用者数

	6月	7月	8月	9月	10月	計	備考	
平成16年	岩尾別 (人)	668	3,628	2,490	1,199	270	8,255	下山数
	硫黄山 (人)	136	667	354	355	127	1,639	
	湯ノ沢 (人)	79	136	221	136	79	651	下山数
合計 (人)	883	4,431	3,065	1,690	476	10,545		
平成17年	岩尾別 (人)	589	3,798	2,638	1,720	295	9,040	下山数
	硫黄山 (人)		385	311	80		776	
	湯ノ沢 (人)	105	111	163	125	52	556	下山数
合計 (人)	695	4,294	3,112	1,925	346	10,372		
平成18年	岩尾別 (人)	414	4,386	2,248	1,466	259	8,773	下山数
	湯ノ沢 (人)	55	127	172	129	60	543	下山数
	合計 (人)	469	4,513	2,420	1,595	319	9,316	
平成19年	岩尾別 (人)	417	3,461	2,214	1,130	252	7,474	下山数
	湯ノ沢 (人)	89	132	227	129	57	634	下山数
	合計 (人)	506	3,593	2,441	1,259	309	8,108	
平成20年	岩尾別 (人)	697	3,301	1,873	1,176	309	7,355	下山数
	湯ノ沢 (人)	72	131	149	173	60	585	下山数
	合計 (人)	769	3,432	2,022	1,349	369	7,940	
平成21年	岩尾別 (人)	563	2,635	1,899	1,148	145	6,390	下山数
	湯ノ沢 (人)	54	168	199	189	27	637	下山数
	合計 (人)	617	2,803	2,098	1,337	172	7,027	
平成22年	岩尾別 (人)	481	2,442	1,937	910	271	6,041	下山数
	湯ノ沢 (人)	68	101	197	88	33	487	下山数
	合計 (人)	549	2,543	2,134	998	304	6,528	
合計前年比	89%	91%	102%	75%	177%	93%		
合計世界遺産登録前比	62%	57%	70%	59%	64%	62%	平成16年比	
合計ピーク年比	62%	57%	70%	59%	64%	62%	平成16年比	

グラフ：知床連山利用者数の年次変化

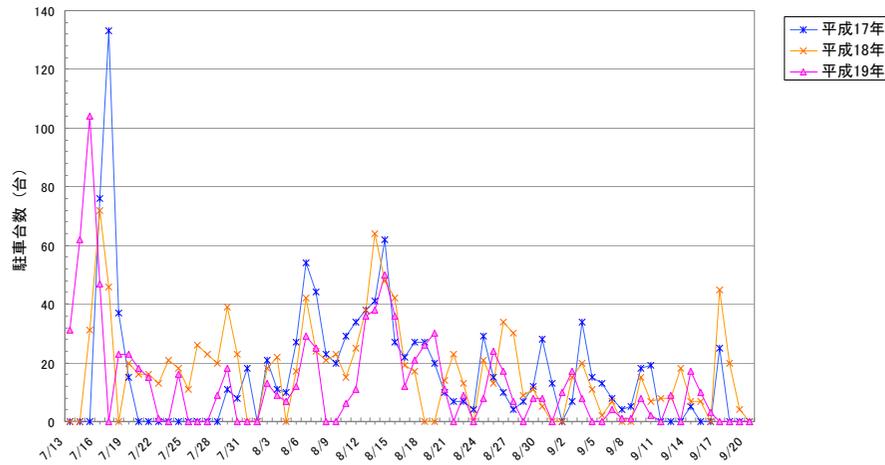


出典：環境省 カウンター調査

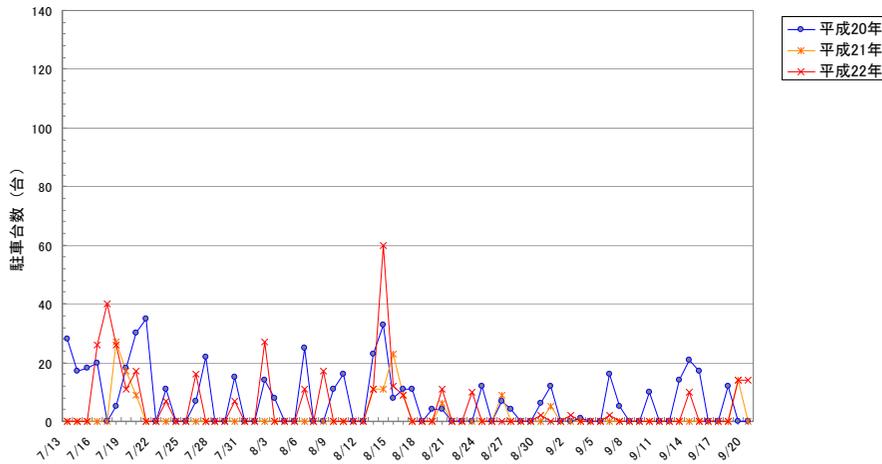
コメント：前年比7%減。(8月26日～9月2日羅臼岳登山道自粛要請実施※ヒグマ出没による)

b. ハイシーズン（7～9月）の岩尾別登山口路上駐車台数

グラフ：ハイシーズン（7～9月）の岩尾別登山口路上駐車台数（平成17年～19年）



グラフ：ハイシーズン（7～9月）の岩尾別登山口路上駐車台数（平成20年～22年）



出典：環境省 路上駐車台数調査

コメント：最大60台/日。(8月14日) 昨年よりも集中が目立ち、8月中旬の集中は平成17年と同等。

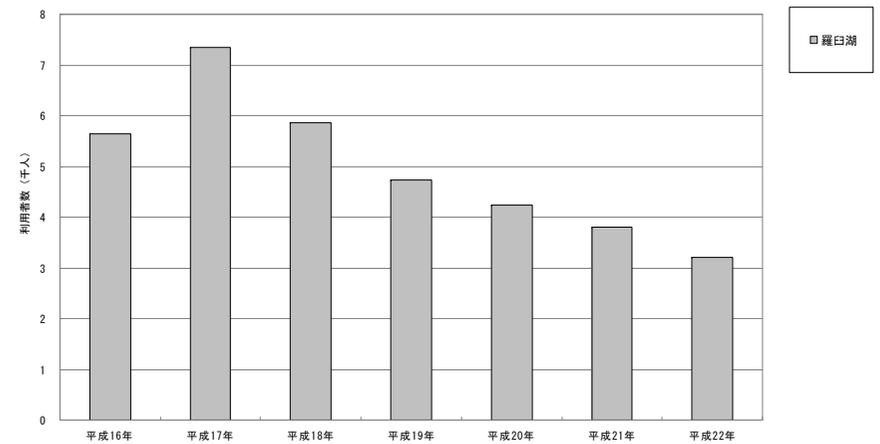
5) 羅臼湖地域

a. 羅臼湖登山道利用者数（羅臼湖カウンター調査）

表：羅臼湖登山道利用者数

		6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成16年	利用者(人)	748	1,423	1,536	1,247	681	—	5,635	下山数 6月の設置が11日長い
平成17年	利用者(人)	598	1,321	2,302	1,672	1,394	66	7,353	下山数 6月の設置が11日長い
平成18年	利用者(人)	312	2,130	1,662	1,287	448	25	5,864	下山数
平成19年	利用者(人)	179	1,434	1,568	938	609	2	4,730	下山数
平成20年	利用者(人)	438	937	1,173	1,024	669	—	4,241	下山数
平成21年	利用者(人)	268	927	1,293	1,065	257	—	3,810	下山数(設置期間:6/18~10/19)
平成22年	利用者(人)	268	810	1,095	767	275	—	3,215	下山数(設置期間:6/18~10/19)
前年比		100%	87%	85%	72%	107%	—	84%	
世界遺産登録前比		36%	57%	71%	62%	40%	—	57%	平成16年比
ピーク年比		45%	61%	48%	46%	20%	—	44%	平成17年比

グラフ：羅臼湖登山道利用者数年次変化



出典：環境省 カウンター調査

コメント：前年比16%減。

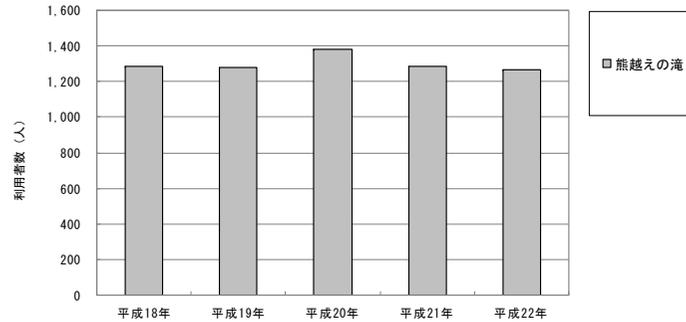
6) 羅臼温泉地区

a. 熊越えの滝利用者数（熊越えの滝カウンター調査）

表：熊越えの滝歩道利用者数

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成18年	利用者数（人）	—	153	324	393	229	176	12	1,287	下山数
平成19年	利用者数（人）	—	221	266	330	199	246	14	1,276	下山数
平成20年	利用者数（人）	41	203	304	274	267	290	—	1,379	下山数
平成21年	利用者数（人）	29	154	290	380	320	114	—	1,287	下山数（設置期間：5/19～10/19）
平成22年	利用者数（人）	27	251	240	414	232	103	—	1,267	下山数（設置期間：5/25～10/27）
前年比		93%	163%	83%	109%	73%	90%	—	98%	

グラフ：熊越えの滝歩道利用者数年次変化



出典：環境省 カウンター調査

コメント：ほぼ前年並。

(3) 知床半島先端部地区の利用状況

1) 知床岬、知床沼、知床岳地域

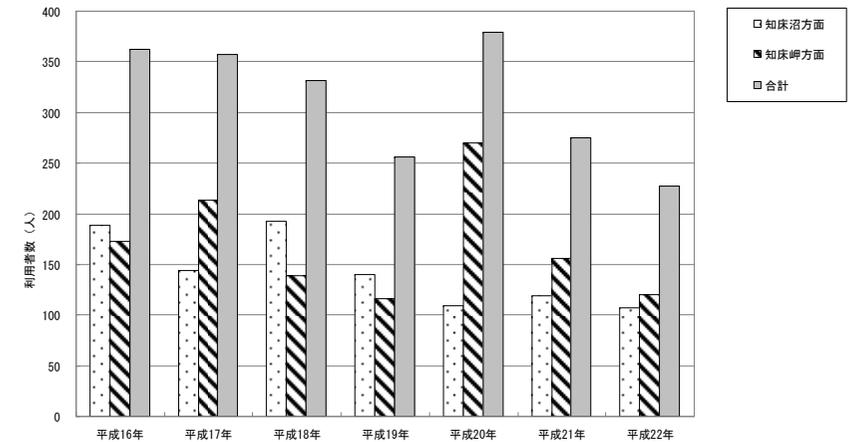
a. 陸路による知床岬、知床沼方面利用者数（ウナキベツ・観音岩カウンター調査）

表：陸路による知床岬、知床沼方面利用者数

		6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成16年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	30	151	110	56	15	362	観音岩カウンター
	知床沼方面入山者 (B)	12	94	50	21	12	189	ウナキベツカウンター
平成17年	知床岬方面 (A-B)	18	57	60	35	3	173	
	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	34	134	144	45	0	357	世界遺産登録
平成18年	知床沼方面入山者 (B)	18	33	69	21	3	144	
	知床岬方面 (A-B)	16	101	75	24	0	213	
平成19年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	36	120	134	28	14	332	
	知床沼方面入山者 (B)	43	39	88	22	1	193	
平成20年	知床岬方面 (A-B)	0	81	46	6	13	139	
	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	6	117	97	26	10	256	設置期間：5/31～11/26
平成21年	知床沼方面入山者 (B)	24	31	70	15	0	140	設置期間：5/31～11/11
	知床岬方面 (A-B)	0	86	27	11	10	116	
平成22年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	27	111	194	35	12	379	設置期間：5/13～11/27
	知床沼方面入山者 (B)	32	14	42	21	0	109	5月の利用者数：(A) 6名、(B) 11名
平成22年	知床岬方面 (A-B)	0	97	152	14	12	270	11月は利用者無し
	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	25	96	103	45	6	275	設置期間：5/14～11/4
平成22年	知床沼方面入山者 (B)	42	9	39	29	0	119	5月の利用者数：(A) 25名、(B) 40名
	知床岬方面 (A-B)	0	87	64	16	6	156	11月は利用者無し
平成22年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	10	91	95	25	6	227	設置期間：5/10～11/5
	知床沼方面入山者 (B)	21	21	41	24	0	107	5月の利用者数：(A) 8名、(B) 22名
平成22年	知床岬方面 (A-B)	0	70	54	1	6	120	11月は利用者無し
	前年比 知床沼方面B	50%	233%	105%	83%	100%	90%	
平成22年	前年比 知床岬方面A-B	100%	80%	84%	6%	100%	77%	
	世界遺産登録前比 知床沼方面B	0%	74%	108%	5%	50%	63%	平成16年比
平成22年	世界遺産登録前比 知床岬方面A-B	0%	123%	90%	3%	200%	69%	平成16年比

※知床岬方面がマイナス値になる場合は0に置き換えている

グラフ：陸路による知床岬、知床沼方面利用者数年次変化



出典：環境省 カウンター調査

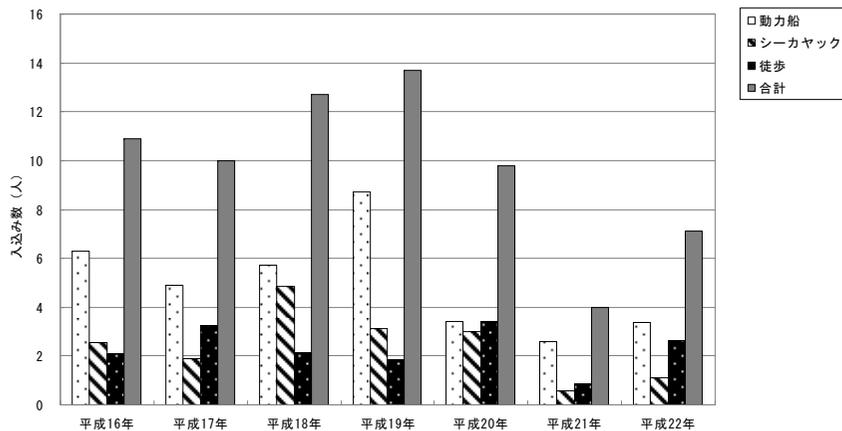
コメント：知床岬方面前年比23%減。知床沼方面10%減。(7月14日～15日知床岬トレッキング自粛要請実施※ヒグマ出没による)

b. ハイシーズン（8月中旬）の知床岬入込み数と1日あたり平均入込み数（現地実態調査）

表：ハイシーズン（8月中旬）の知床岬入込み数と1日あたり平均入込み数

	動力船			シーカヤック			徒歩			1日平均計		備考	
	グループ	人数	1日平均	グループ	人数	1日平均	グループ	人数	1日平均	人数	期間	日数	
平成16年	14	69	6.3	5	28	2.5	9	23	2.1	10.9	8/6~16	11	
平成17年	8	39	4.9	5	15	1.9	5	26	3.3	10.0	8/12~19	8	
平成18年	10	40	5.7	4	34	4.9	5	15	2.1	12.7	8/11~17	7	
平成19年	11	61	8.7	7	22	3.1	5	13	1.9	13.7	8/11~17	7	
平成20年	6	17	3.4	2	15	3.0	2	17	3.4	9.8	8/14~18	5	
平成21年	6	18	2.6	4	4	0.6	2	6	0.9	4.0	8/9~15	7	
平成22年	6	27	3.4	3	9	1.1	5	21	2.6	7.1	8/7~14	8	
前年比	100%	150%	131%	75%	225%	197%	250%	350%	306%	178%			
世界遺産登録前比	43%	39%	54%	60%	32%	44%	56%	91%	126%	65%	平成16年比		

グラフ：ハイシーズン（8月中旬）の知床岬入込み数と1日あたり平均入込み数年次変化



出典：環境省 平成21年度国立公園等民間活用特定自然環境保全活動事業
知床世界遺産地域における利用の適正化と野生動物との共生推進業務

コメント：昨年より増加したが、ここ3ヶ年は1日あたり、10人以下が平均となっている。

2) 観光船

a. ウトロ及び羅臼地区観光船利用者数

表：ウトロ観光船利用者数（観光船業者8社中、3社のデータ）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成19年	1,986	14,462	51,377	52,690	71,453	38,094	17,306	247,368	
アンケート回収率調査値(人)	2,309	16,816	59,741	61,267	83,085	44,295	20,123	287,637	乗船定員989名/1145名=0.86
平成20年	2,028	22,269	42,049	47,962	50,278	39,989	23,359	227,934	
アンケート回収率調査値(人)	2,386	26,199	49,469	56,426	59,151	47,046	27,481	268,158	乗船定員946名/1114名=0.85
平成21年	608	16,063	32,169	32,664	46,872	31,226	11,315	170,917	
アンケート回収率調査値(人)	741	19,589	39,230	39,834	57,161	38,080	13,799	208,435	乗船定員955名/1163名=0.82
平成22年	1,037	13,858	27,236	33,906	50,748	26,477	17,195	170,457	
アンケート回収率調査値(人)	1,280	17,109	33,625	41,859	62,652	32,688	21,228	210,441	乗船定員943名/1163名=0.81
前年比	173%	87%	86%	105%	110%	86%	154%	101%	

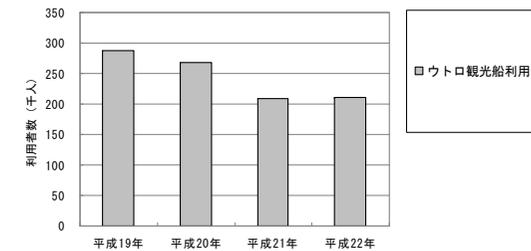
※観光船事業者全船舶の合計定員と、回収できた事業者の船舶の合計定員から、回収率を算定

表：羅臼観光船利用者数（観光船業者4社中、4社のデータ）

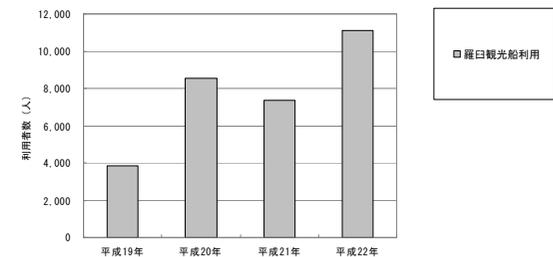
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成19年	無	1,031	128	383	74	316	355	1,225	577	94	24	0	4,207	
アンケート回収率調査値(人)	無	1,031	128	11	74	316	355	1,225	577	94	24	0	3,835	乗船定員383名/383名=1.0
平成20年	29	1,516	631	288	423	615	1,252	2,300	1,332	170	未	未	8,555	乗船定員357名/357名=1.0
アンケート回収率調査値(人)	29	1,516	631	288	423	615	1,252	2,300	1,332	170	0	0	8,555	乗船定員357名/357名=1.0
平成21年	10	541	389	128	661	580	1,370	2,329	1,157	194	未	未	7,359	乗船定員344名/344名=1.0
アンケート回収率調査値(人)	10	541	389	128	661	580	1,370	2,329	1,157	194	未	未	7,359	乗船定員344名/344名=1.0
平成22年	25	1,793	486	64	599	807	1,618	3,829	1,437	472	未	未	11,130	乗船定員344名/344名=1.0
アンケート回収率調査値(人)	25	1,793	486	64	599	807	1,618	3,829	1,437	472	未	未	11,130	乗船定員344名/344名=1.0
前年比	250%	331%	125%	87%	91%	139%	118%	164%	124%	243%	—	—	151%	

※観光船事業者全船舶の合計定員と、回収できた事業者の船舶の合計定員から、回収率を算定

グラフ：ウトロ地区観光船利用者数年次変化



グラフ：羅臼地区観光船利用者数年次変化



本業務によるアンケート調査

コメント：ウトロ地区は前年並。羅臼地区は51%増。

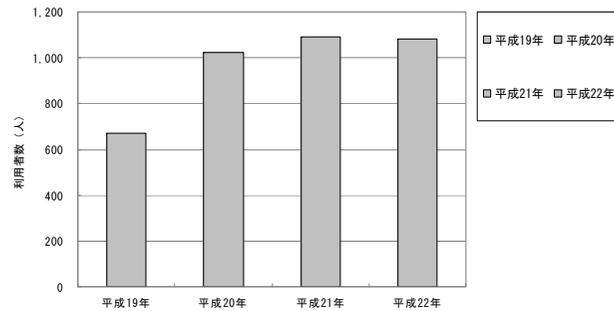
3) シーカヤック

a. シーカヤック利用者数

表：シーカヤック利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成19年	シーカヤック利用（人）	15	21	39	162	324	108	2	671	
	アンケート回収率勘案値（人）	15	21	39	162	324	108	2	671	4社/4社=1.0
平成20年	シーカヤック利用（人）	15	25	23	227	448	246	40	1,024	
	アンケート回収率勘案値（人）	15	25	23	227	448	246	40	1,024	4社/4社=1.0
平成21年	シーカヤック利用（人）	3	79	86	207	481	227	9	1,092	
	アンケート回収率勘案値（人）	3	79	86	207	481	227	9	1,092	4社/4社=1.0
平成22年	シーカヤック利用（人）	0	71	81	225	527	167	13	1,084	
	アンケート回収率勘案値（人）	0	71	81	225	527	167	13	1,084	4社/4社=1.0
前年比		0%	90%	94%	109%	110%	74%	144%	99%	

グラフ：シーカヤック利用者数年次変化



コメント：ほぼ前年並。

本業務によるアンケート調査

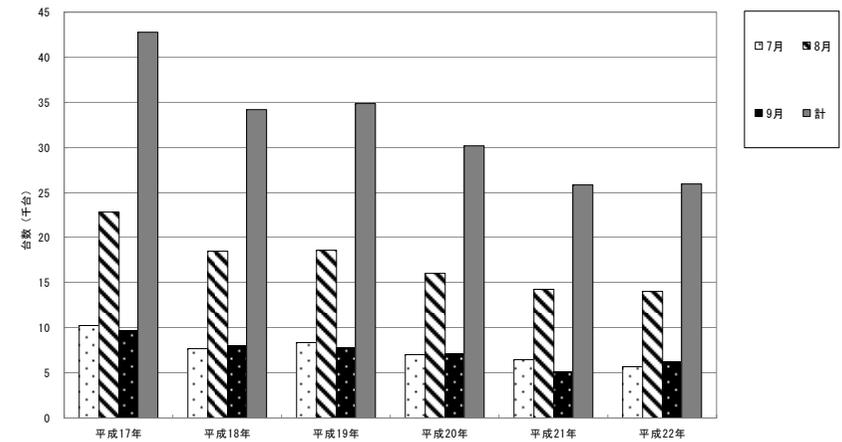
(4) 施設利用状況

1) 知床自然センター駐車台数（マイカー規制実施期間）

表：知床自然センター駐車台数

		7月	8月	9月	計	備考
平成17年	駐車台数（台）	10,243	22,870	9,702	42,815	
平成18年	駐車台数（台）	7,633	18,516	8,047	34,196	
平成19年	駐車台数（台）	8,388	18,589	7,839	34,816	
平成20年	駐車台数（台）	7,014	16,071	7,122	30,207	
平成21年	駐車台数（台）	6,496	14,260	5,079	25,835	
平成22年	駐車台数（台）	5,699	14,007	6,291	25,997	
前年比		88%	98%	124%	101%	
ピーク年比		56%	61%	65%	61%	平成17年比

グラフ：知床自然センター駐車台数年次変化



出典：カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

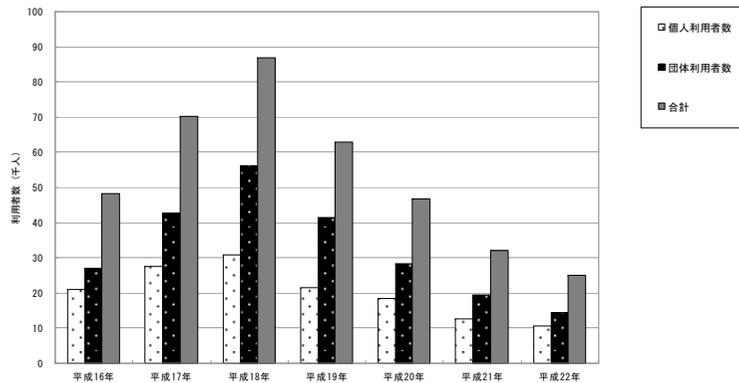
コメント：ほぼ前年並の利用となっている。

2) 知床自然センターダイナビジョン利用者数（団体・個人）

表：ダイナビジョン利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成16年	個人利用者数(人)	141	675	714	668	2,129	2,254	4,190	4,412	2,592	1,665	1,413	206	21,059	
	団体利用者数(人)	231	1,445	586	1,214	3,178	4,545	5,974	2,678	2,912	2,682	1,373	327	27,145	
	利用者数合計(人)	372	2,120	1,300	1,882	5,307	6,799	10,164	7,090	5,504	4,347	2,786	533	48,204	
平成17年	個人利用者数(人)	204	699	608	573	1,732	2,302	3,908	6,191	4,857	4,127	1,650	588	27,439	
	団体利用者数(人)	222	912	426	454	1,910	3,779	3,309	2,408	8,432	12,051	5,187	3,674	42,764	
	利用者数合計(人)	426	1,611	1,034	1,027	3,642	6,081	7,217	8,599	13,289	16,178	6,837	4,262	70,203	
平成18年	個人利用者数(人)	893	1,295	1,324	983	2,953	3,593	3,744	5,941	4,203	3,837	1,289	830	30,865	
	団体利用者数(人)	1,741	2,195	3,593	3,536	5,599	8,039	3,612	2,948	9,089	10,945	3,774	877	55,948	
	利用者数合計(人)	2,634	3,490	4,917	4,519	8,552	11,632	7,356	8,889	13,292	14,782	5,063	1,707	86,833	
平成19年	個人利用者数(人)	357	713	712	990	2,395	2,493	3,395	3,667	2,810	2,601	513	714	21,360	
	団体利用者数(人)	746	1,177	1,018	1,510	5,403	5,532	6,211	1,565	8,209	7,131	2,857	147	41,506	
	利用者数合計(人)	1,103	1,890	1,730	2,500	7,798	8,025	9,606	5,232	11,019	9,732	3,370	861	62,866	
平成20年	個人利用者数(人)	148	465	541	541	1,646	2,274	3,103	3,899	2,581	2,003	736	425	18,362	
	団体利用者数(人)	436	973	981	891	3,640	4,320	2,753	2,040	3,696	5,323	2,174	1,073	28,300	
	利用者数合計(人)	584	1,438	1,522	1,432	5,286	6,594	5,856	5,939	6,277	7,326	2,910	1,498	46,662	
平成21年	個人利用者数(人)	215	338	563	353	1,003	1,107	2,722	2,117	1,964	1,408	489	305	12,584	
	団体利用者数(人)	214	561	1,643	2,272	1,552	2,034	2,409	684	2,569	3,611	1,423	515	19,487	
	利用者数合計(人)	429	899	2,206	2,625	2,555	3,141	5,131	2,801	4,533	5,019	1,912	820	32,071	
平成22年	個人利用者数(人)	273	284	515	328	767	1,061	1,830	1,963	1,842	928	650	192	10,633	
	団体利用者数(人)	161	518	687	535	1,131	1,388	2,735	813	3,427	2,294	433	176	14,298	
	利用者数合計(人)	434	802	1,202	863	1,898	2,449	4,565	2,776	5,269	3,222	1,083	368	24,931	
合計前年比		101%	89%	54%	33%	74%	78%	89%	99%	116%	64%	57%	45%	78%	
合計世界遺産登録前比		117%	38%	92%	46%	36%	36%	45%	39%	96%	74%	39%	69%	52%	平成16年比
合計ピーク年比		16%	23%	24%	19%	22%	21%	62%	31%	40%	22%	21%	22%	29%	平成18年比

グラフ：ダイナビジョン利用者数年次変化



出典：公益財団法人 知床財団

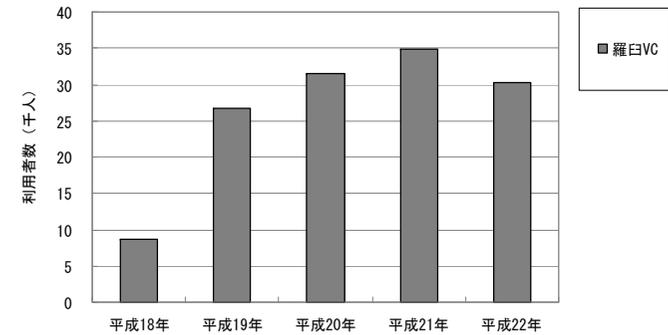
コメント：前年比32%減。世界遺産登録前比48%減。団体利用の減少が目立つ。

3) 羅臼ビジターセンター利用者数

表：羅臼ビジターセンター利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成18年	利用者数(人)	83	269	296	379	603	1,170	1,346	1,770	1,106	1,203	257	144	8,626	
平成19年	利用者数(人)	141	307	334	—	1,218	4,805	5,403	6,343	4,327	3,034	567	287	26,766	5月新築・閉館
平成20年	利用者数(人)	227	548	572	724	2,205	2,797	5,431	9,579	5,028	3,690	357	275	31,433	
平成21年	利用者数(人)	173	744	1,000	836	4,256	3,735	5,983	8,405	6,451	2,544	514	183	34,824	
平成22年	利用者数(人)	170	565	140	679	3,076	2,897	5,841	8,747	5,103	2,297	415	250	30,180	
前年比		98%	76%	14%	81%	72%	78%	98%	104%	79%	90%	81%	137%	87%	
新築前比		205%	210%	47%	179%	510%	248%	434%	494%	461%	191%	161%	174%	350%	平成18年比

グラフ：羅臼ビジターセンター利用者数年次変化



出典：羅臼ビジターセンター

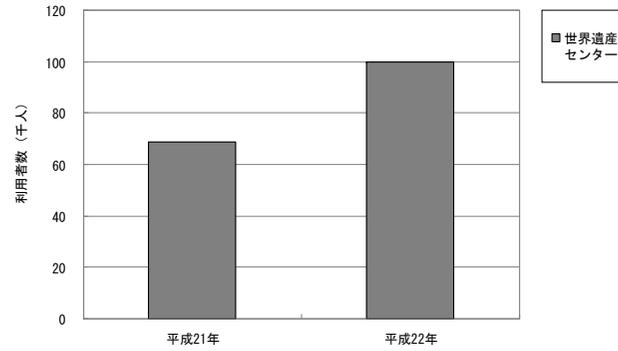
コメント：前年比23%減。総数は1昨年並みの利用者数。新築以後、増加傾向であったが、初めての減少となった。7、8月の利用は昨年と同等である。

4) 知床世界遺産センター利用者数

表：知床世界遺産センター利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成21年	利用者数(人)	—	—	—	2,237	9,622	7,231	11,273	14,767	12,950	6,602	2,605	1,407	68,694	4/19オープン
平成22年	利用者数(人)	2,506	2,518	3,323	3,864	9,504	10,103	17,854	22,759	15,306	8,426	2,746	1,111	100,020	
前年比		—	—	—	173%	99%	140%	158%	154%	118%	128%	105%	79%		

グラフ：知床世界遺産センター利用者数年次変化



出典：知床世界遺産センター

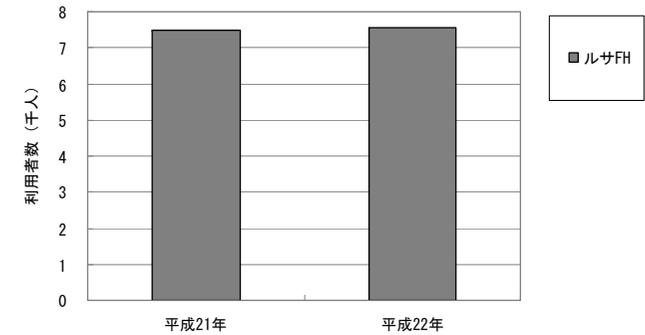
コメント：ほぼ全ての月にて利用者数の増加が見られた。

5) 知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数

表：知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成21年	利用者数(人)	—	—	—	—	—	880	1,596	1,999	1,858	1,151	—	—	7,484	6月7日閉館 11月～1月閉館
平成22年	利用者数(人)	—	146	52	154	889	894	1,194	2,017	1,324	900	—	—	7,570	11月～1月閉館
前年比		—	—	—	—	—	102%	75%	101%	71%	78%	—	—		

グラフ：知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数年次変化



出典：知床世界遺産ルサフィールドハウス

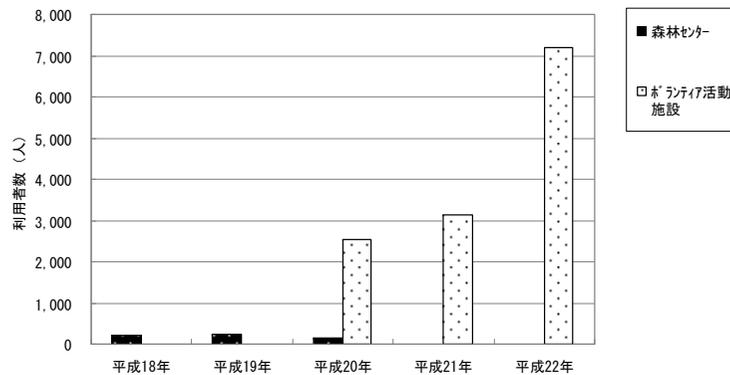
コメント：7月、9月、10月は前年比20～30%程度減少した。

7) 森林センター・ボランティア活動施設利用者数

表：森林センター・ボランティア活動施設利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成18年	森林センター（人）	23	0	19	0	0	23	42	18	20	17	24	10	196	
平成19年	森林センター（人）	12	20	18	0	0	23	50	27	16	23	35	0	224	
平成20年	森林センター（人）	25	0	17	0	0	23	19	0	0	19	18	18	139	
	ボランティア活動施設（人）					181	237	811	758	445	112	7	0	2,551	5月新築・閉館
平成21年	ボランティア活動施設（人）	0	21	12	112	126	354	641	1,061	471	201	94	55	3,148	1-3月は工事のためのイベント利用者のみ利用
平成22年	ボランティア活動施設（人）	96	71	79	101	541	626	1,086	2,243	723	626	469	538	7,199	
前年比		—	338%	658%	90%	429%	177%	169%	211%	154%	311%	49%	978%	229%	

グラフ：森林センター・ボランティア活動施設利用者数年次変化



出典：林野庁北海道森林管理局 知床森林センター

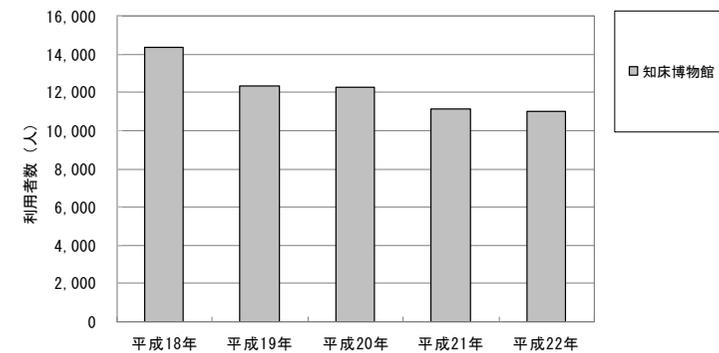
コメント：ボランティア活動施設は前年比 129%増。

8) 知床博物館利用者数

表：知床博物館利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成18年	知床博物館（人）	291	830	805	939	1,246	2,010	2,508	2,551	1,292	943	615	308	14,338	
平成19年	知床博物館（人）	355	565	678	1,166	943	1,017	2,129	1,940	1,128	1,110	898	387	12,316	
平成20年	知床博物館（人）	454	684	531	868	1,027	1,597	2,308	1,615	1,157	889	781	375	12,286	
平成21年	知床博物館（人）	323	707	537	889	770	1,097	2,315	1,241	1,356	947	619	298	11,099	
平成22年	知床博物館（人）	236	412	684	676	869	980	2,600	1,651	1,215	791	430	461	11,005	
前年比		73%	58%	127%	76%	113%	89%	112%	133%	90%	84%	69%	155%	99%	

グラフ：知床博物館利用者数年次変化



コメント：ほぼ前年並。

出典：斜里町立知床博物館

2. 知床世界自然遺産地域における第一次産業の状況

1) 斜里町における産業統計

2) 羅臼町における産業統計

■産業別15歳以上就業者数の推移

産業区分	平成7年			平成12年			平成17年		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	4,187	2,555	1,632	3,999	2,408	1,591	3,732	2,210	1,522
第1次産業	1,930	1,298	632	1,729	1,135	594	1,553	1,044	509
農業	38	24	14	38	22	16	28	16	12
林業・狩猟業	6	6	0	3	3	0	4	4	0
漁業	1,886	1,268	618	1,688	1,110	578	1,521	1,024	497
第2次産業	718	429	289	778	486	292	666	379	287
鉱業	11	9	2	10	9	1	9	8	1
建設業	305	250	55	323	276	47	192	166	26
製造業	402	170	232	445	201	244	465	205	260
第3次産業	1,539	828	711	1,491	787	704	1,513	787	726
卸・小売業	540	223	317	496	207	289	574	207	367
金融・保険業・不動産業	49	20	29	46	19	27	38	21	17
運輸・通信業	108	91	17	114	91	23	99	82	17
電気・ガス・水道業	8	8	0	1	1	0	3	2	1
サービス業	636	328	308	644	311	333	614	316	298
公務	198	158	40	190	158	32	185	159	26
分類不能の産業	0	0	0	1	0	1	0	0	0

(国勢調査より)

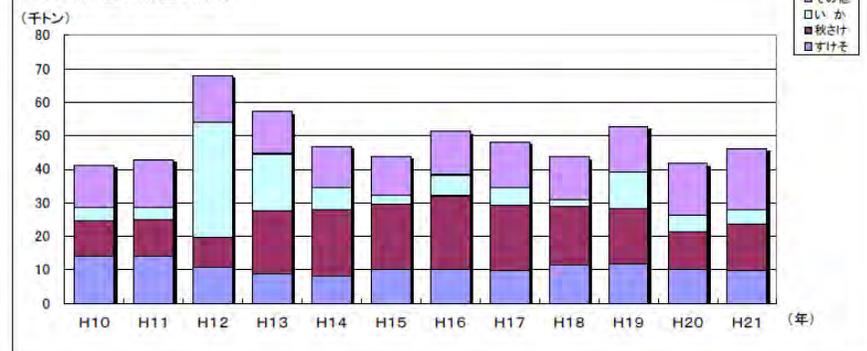
■漁業生産状況

(単位 トン:千円)

魚種	平成17年		平成18年		平成19年		平成20年		平成21年	
	数量	金額								
すけそ	9,637	1,808,057	11,319	1,937,610	11,849	2,184,755	10,234	1,755,572	9,799	1,401,395
秋さけ	19,549	5,383,121	17,552	6,259,612	16,552	6,206,468	11,145	5,416,486	13,868	4,815,600
けいじ	7	84,252	6	92,239	3	67,030	4	61,157	7	47,902
ほっけ	7,772	1,324,034	6,546	1,220,755	4,045	653,790	5,971	1,246,215	7,580	932,906
めんめ	97	234,872	69	179,724	59	180,944	56	179,698	40	118,082
うに	19	96,379	19	124,906	89	130,000	87	145,158	89	120,906
たら	2,103	629,352	2,864	763,785	2,255	779,102	3,175	1,065,907	4,060	1,481,475
かれい	850	165,526	905	184,213	1,276	268,615	1,445	331,888	1,168	307,433
いか	5,288	1,271,697	1,936	463,492	10,820	1,883,955	4,870	791,777	4,347	698,360
おひょう	17	17,389	16	17,451	18	12,917	23	16,628	44	24,538
その他	2,291	514,029	2,038	549,553	5,213	1,348,706	4,498	1,220,024	4,551	1,213,761
こんぶ	476	1,176,973	419	1,059,119	522	1,490,653	216	577,892	580	1,486,559
合計	48,106	12,705,681	43,689	12,852,459	52,701	15,206,935	41,724	12,808,402	46,133	12,648,917

(資料:水産商工観光課)

■主要魚種水揚量の推移



V 平成 22 年度 知床世界自然遺産地域管理計画の実施状況

1. 知床地域におけるハード事業の実施状況

A. 知床地域の既存事業一覧

道路（車道）

名称	管理者	全体規模	H22 年度	ページ
知床公園羅臼線 (87 号線)	北海道	災害防除一式 防雪一式	落石予防工・法面工 雪崩予防工	
知床公園線 (93 号線)	北海道	災害防除一式	落石予防工・防護工	
知床国道（334 号線）	北海道開発局		斜面对策等	

道路（歩道）

名称	管理者	全体規模	H22 年度	ページ

園地

名称	管理者	全体規模	H22 年度	ページ

野営場

名称	管理者	全体規模	H22 年度	ページ

駐車場

名称	管理者	全体規模	H22 年度	ページ

河川工作物

①河川工作物WGにおいて、改良が適当とされたもの

名称	工作物の管理者	全体規模	H22 年度	ページ
イワウベツ川	森林管理局	5 基	H22 改良済み	
ルシヤ川	北海道	2 基	※H18 改良済み	
チエンベツ川	北海道	2 基	※H21 までに 2 基改良済み	
サシルイ川	北海道	2 基	※H19 改良済み	
羅臼川	北海道	1 基	改良中	

②その他の河川工作物

名称	工作物の管理者	全体規模	備考
ルシヤ川	北海道	1 基	
	民間	1 基	

ポンプタ川	森林管理局	7 基	
イワウベツ川	森林管理局	8 基	
	北海道開発局	7 基	
	斜里町	3 基	
ホロベツ川	北海道開発局	5 基	
アイドマリ川	森林管理局	2 基	
	民間	1 基	
オショロッコ川	森林管理局	1 基	
ショウジ川	北海道	1 基	
ケンベツ川	北海道	8 基	
モセカルベツ川	森林管理局	6 基	
	北海道	6 基	
オッカバケ川	森林管理局	2 基	
	北海道	1 基	
知徒来川	森林管理局	10 基	
羅臼川	森林管理局	11 基	
	北海道開発局	1 基	
	北海道	2 基	
	羅臼町	5 基	

その他

名称	管理者	全体規模	H22 年度	ページ
植生保護柵（岩尾別）	北海道森林管理局 (網走南部森林管理署)	3.93ha	1.65ha 新設	
羅臼漁港	北海道開発局		-4.0m 岸壁等	
ウトロ漁港	北海道開発局		用地等	

B. H22年度 実施事業一覧

() 知床公園線災害防除事業（北海道）

○事業の背景・目的

・知床公園線においては落石等による災害を未然に防止し、安全な通行ができるよう、平成17年度より落石防護網や落石防護柵などの整備を図った。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町岩尾別（カムイワッカ）
- ・遺産地域の区分 **B地区**
- ・法的規制 国立公園第2種特別地域、国指定鳥獣保護区（普通地域）

○事業の概要及び規模

落石予防工・防護工

- ・落石防護網 1,290m²
- ・落石防護柵 80m

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

平成17年度より事業着手

平成23年度以降

予定は無し

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

事業計画段階において環境省などと協議を行い、自然環境に配慮した工種・工法を採用した。

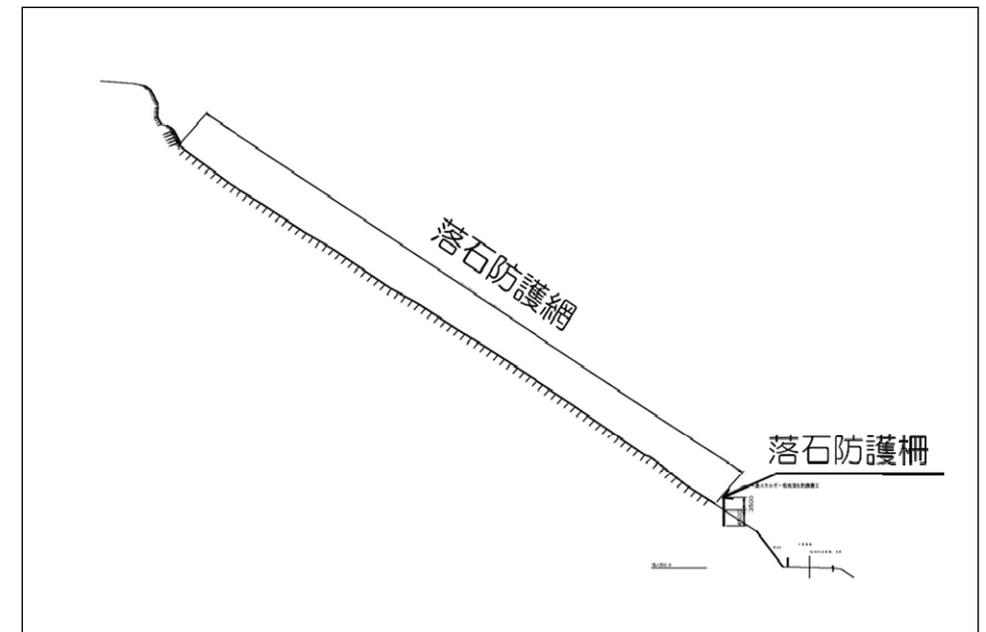
着工前



着工後



位置図



構造図（または、平面図）

() 知床公園羅臼線防雪事業 (北海道)

○事業の背景・目的

・知床公園羅臼線においては雪による災害を未然に防止し、安全な通行ができるよう、平成21年度より雪崩予防柵の整備を図っている。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 羅臼町相泊
- ・遺産地域の区分 **B地区**
- ・法的規制 **国立公園第3種特別地域、国指定鳥獣保護区 (普通地域)**

○事業の概要及び規模

雪崩予防工

- ・雪崩予防柵 205基

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

平成21年度より事業着手

平成23年度以降

雪崩予防工

- ・雪崩予防柵

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

事業計画段階において環境省などと協議を行い、自然環境に配慮した工種・工法を採用している。

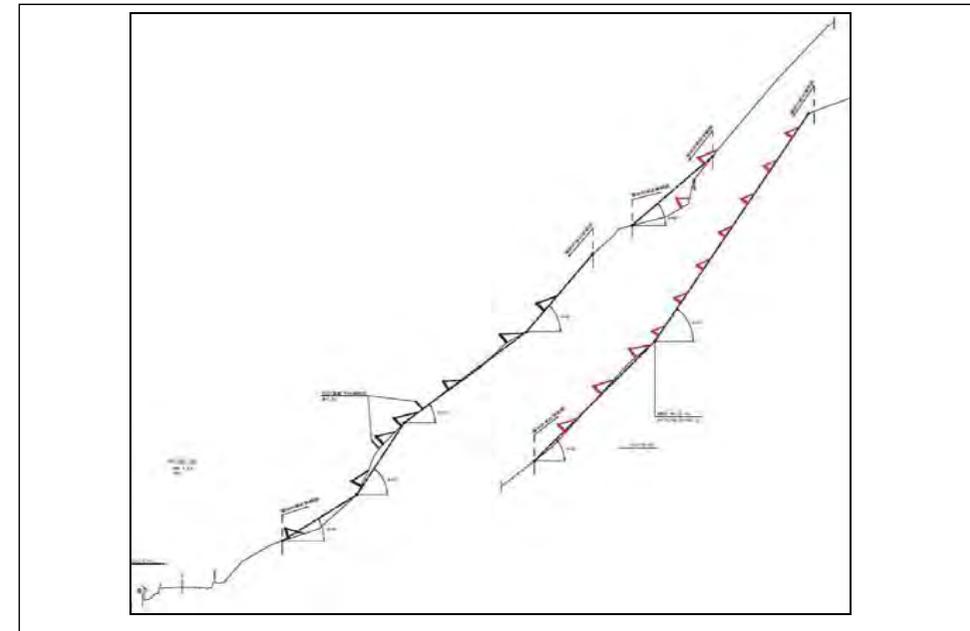
着工前



着工後



位置図



構造図 (または、平面図)

() 知床公園羅臼線災害防除事業（北海道）

○事業の背景・目的

・知床公園羅臼線においては落石等による災害を未然に防止し、安全な通行ができるよう、平成18年度より岩塊除去やコンクリート吹付法枠などの対策を行っている。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 羅臼町瀬石
- ・遺産地域の区分 **B地区**
- ・法的規制 **国立公園第3種特別地域、国指定鳥獣保護区（普通地域）**

○事業の概要及び規模

落石予防工・法面工

- ・岩塊除去 3,200m³
- ・コンクリート吹付法枠 2,100m²
- ・法枠内植生 2,300m²

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

平成18年度より事業着手

平成23年度以降

法面工

- ・コンクリート吹付法枠
- ・法枠内植生

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

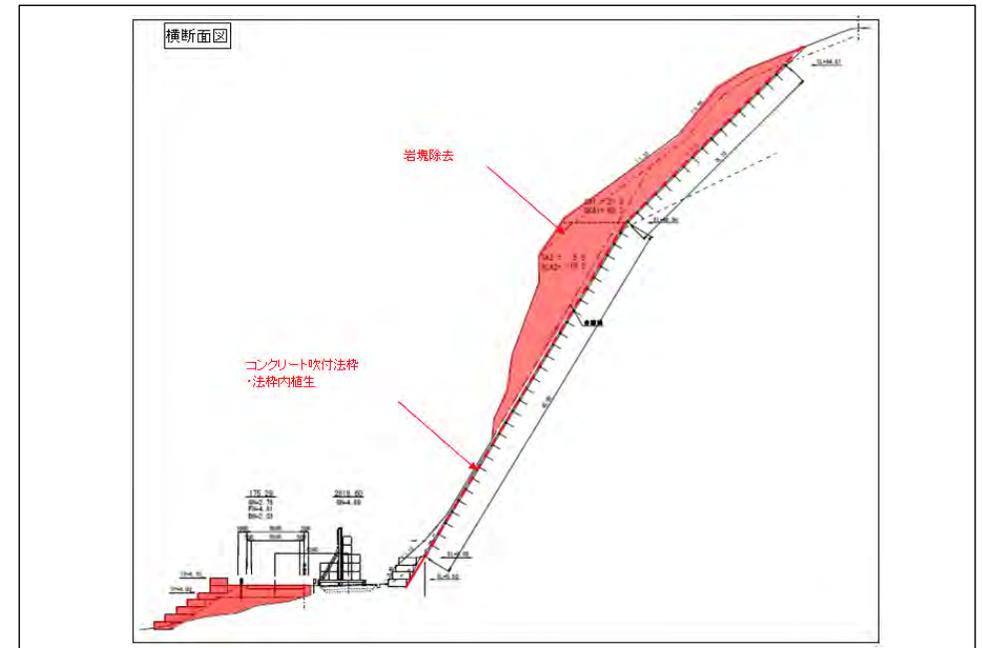
事業計画段階において環境省などと協議を行い、自然環境に配慮した工種・工法を採用している。

着工前

着工後



位置図



構造図（または、平面図）

() 一般国道334号斜里町岩尾別法面補修外一連工事 (北海道開発局)

○事業の背景・目的

一般国道334号は、地域生活をはじめ、地域産業(水産業、観光等)を支える重要な役割を担っている。本事業は、過年度に雨水により損傷した斜面を補修するとともに、落石崩壊に対する斜面对策を行い、道路交通の安全性及び確実性の向上を図った。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町宇岩尾別
- ・遺産地域の区分 A
- ・法的規制 知床国立公園

○事業の概要及び規模(事業費59百万円)

- ・法面崩壊対策の連続繊維補強土工 40m

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

- ・無

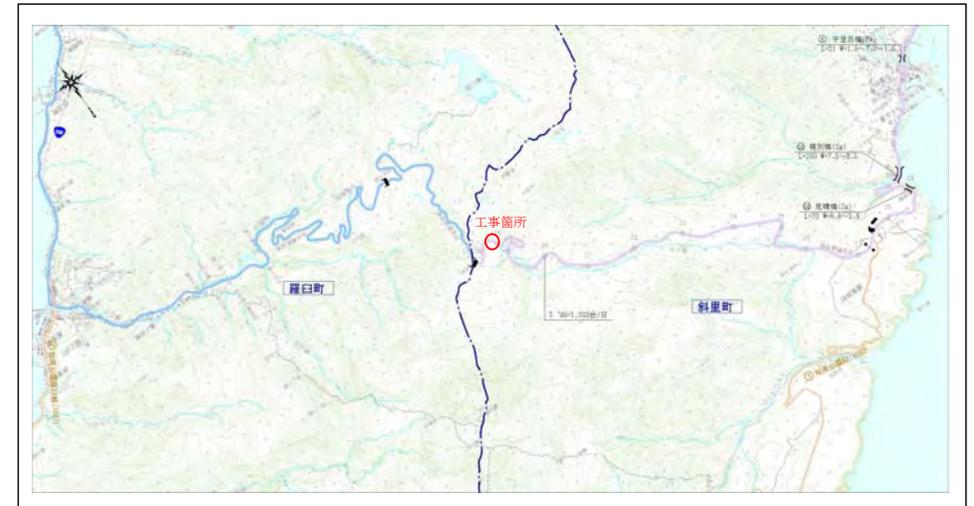
○自然環境保全および利用に関する配慮事項

- ・国立公園内の地形改変を極力抑えるよう配慮した。
- ・粉塵等が飛散しないよう配慮した。

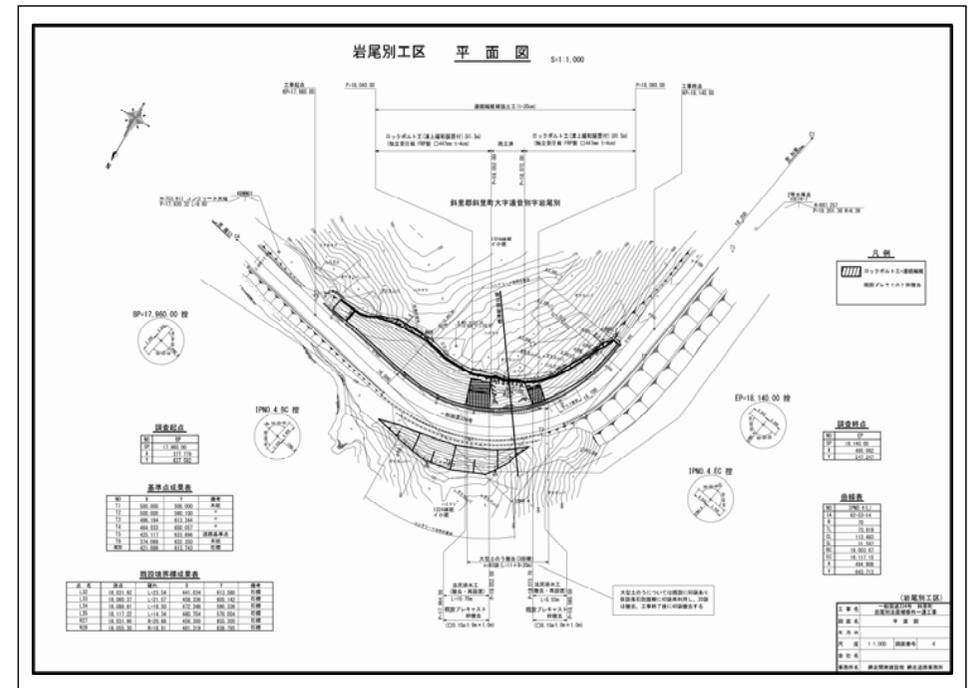
着工前



着工後



位置図



平面図

() 一般国道334号斜里町岩尾別舗装補修外一連工事 (北海道開発局)

○事業の背景・目的

一般国道334号は、地域生活をはじめ、地域産業(水産業、観光等)を支える重要な役割を担っている。本事業は、舗装の補修を行うことにより、道路交通の安全性及び走行性の向上を図った。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町字岩尾別
- ・遺産地域の区分 A・B
- ・法的規制 知床国立公園

○事業の概要及び規模 (事業費 99 百万円)

- ・工事延長 L=3,610m
- ・舗装補修 L=3,610m

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

- ・無

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

- ・祝祭日の舗装工事を自粛し、道路利用者に配慮した。
- ・粉塵等が飛散しないよう配慮した。

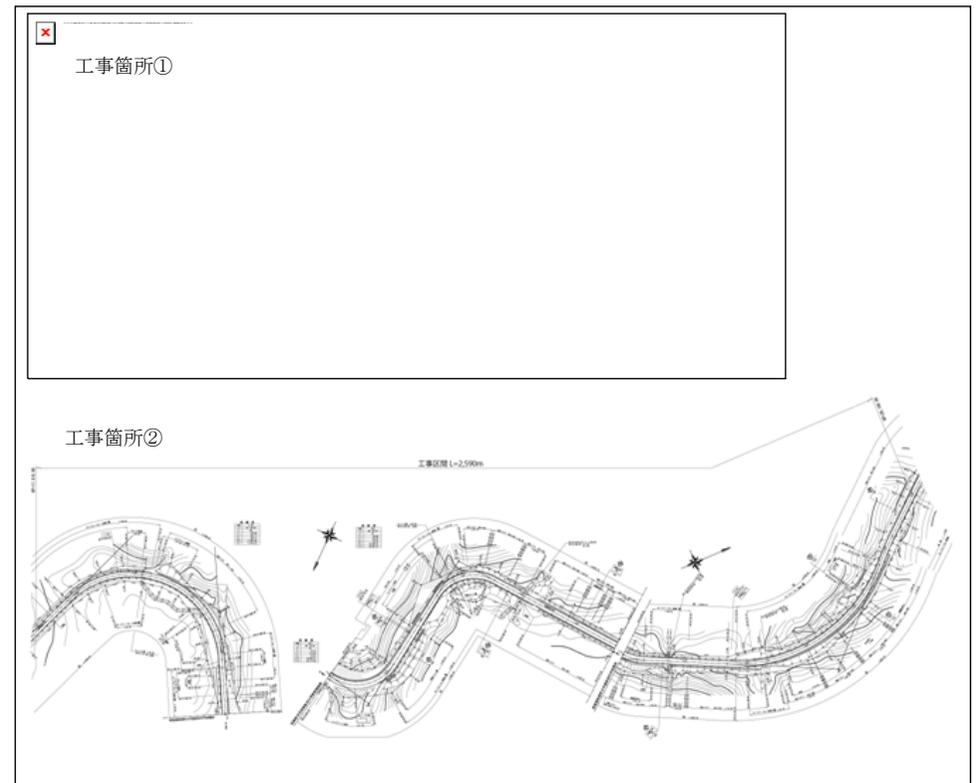
着工前



着工後



位置図



平面図

() 一般国道334号斜里町宇登呂トンネル工事 (北海道開発局)

○事業の背景・目的

一般国道334号は、地域生活をはじめ、地域産業(水産業、観光等)を支える重要な役割を担っている。本事業は、土砂崩落を要因とする通行規制区間において対策を行い、道路交通の安全性及び確実性の向上を図った。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町宇登呂西
- ・遺産地域の区分 無
- ・法的規制 無

○事業の概要及び規模(事業費1,100百万円)

- ・トンネル 360m

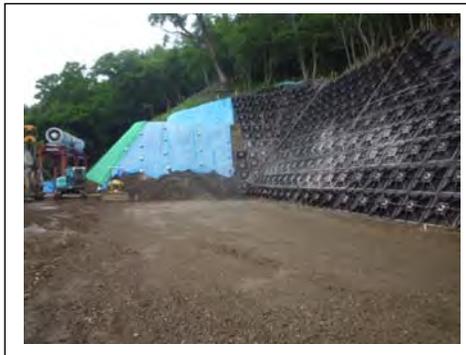
○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

- ・H21 改良工事
- ・H22~H23 トンネル工事

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

- ・猛禽類に対してモニタリング調査を行い野生動物に配慮した。

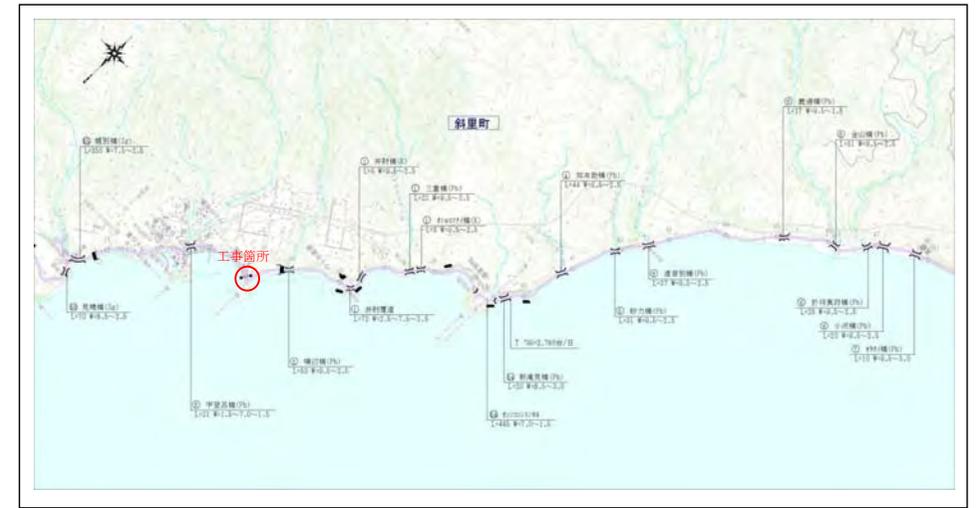
着工前



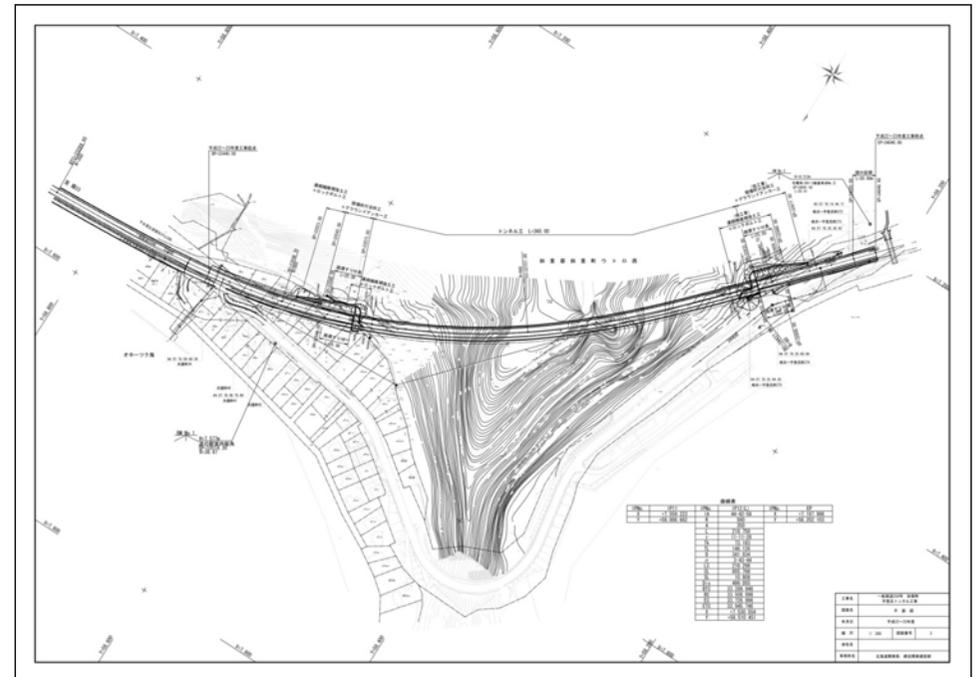
着工後



現在工事中



位置図



平面図

() 一般国道334号斜里町宇登呂改良工事（北海道開発局）

○事業の背景・目的

一般国道334号は、地域生活をはじめ、地域産業（水産業、観光等）を支える重要な役割を担っている。本事業は、土砂崩落を要因とする通行規制区間において対策を行い、道路交通の安全性及び確実性の向上を図った。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町宇登呂西
- ・遺産地域の区分 無
- ・法的規制 無

○事業の概要及び規模（事業費93百万円）

- ・トンネル坑口切土工

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

- ・H21 改良工事
- ・H22～H23 トンネル工事

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

- ・猛禽類に対してモニタリング調査を行い野生動物に配慮した。

着工前



着工後



位置図



平面図

() 一般国道334号斜里町オシンコシン改良工事 (北海道開発局)

○事業の背景・目的

一般国道334号は、地域生活をはじめ、地域産業(水産業、観光等)を支える重要な役割を担っている。本事業は、土砂崩落を要因とする通行規制区間において法面対策を行い、道路交通の安全性及び確実性の向上を図った。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町宇登呂西
- ・遺産地域の区分 無
- ・法的規制 無

○事業の概要及び規模(事業費61百万円)

- ・法面崩壊箇所の切土工 L=60m
- ・法面崩壊箇所の法面保護工 L=60m

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

- ・無

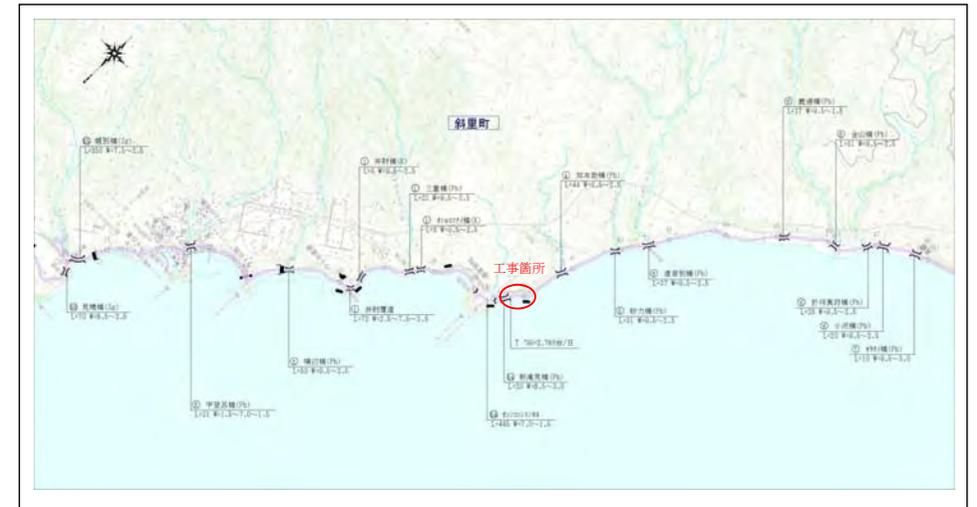
○自然環境保全および利用に関する配慮事項

- ・地形改変を極力少なくするように配慮した。

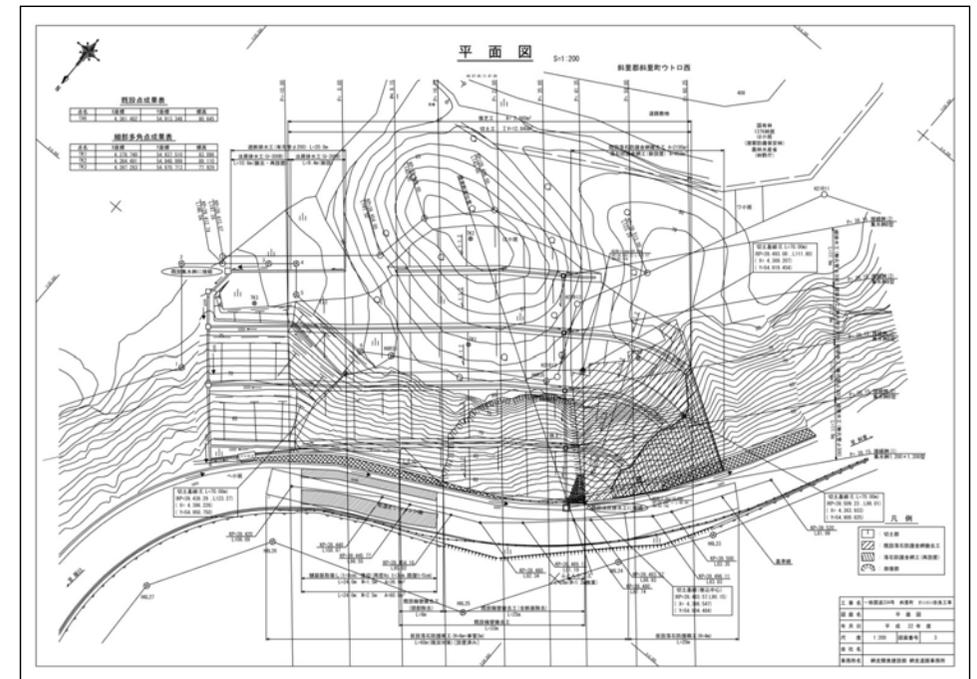
着工前



着工後



位置図



平面図

(6) 一般国道334号斜里町オシャマップ改良工事（北海道開発局）

○事業の背景・目的

一般国道334号は、地域生活をはじめ、地域産業（水産業、観光等）を支える重要な役割を担っている。本事業は、海岸浸食による道路法面の浸食を防ぎ、道路交通の安全性を向上を図った。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町字真鯉
- ・遺産地域の区分 無
- ・法的規制 無

○事業の概要及び規模（事業費 213 百万円）

- ・工事延長 L=900m
- ・道路土工 V=1,300 m³
- ・擁壁工 L=270m

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

- ・無

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

- ・海岸線での施工となるため、汚水の流出に留意し施工を行った。

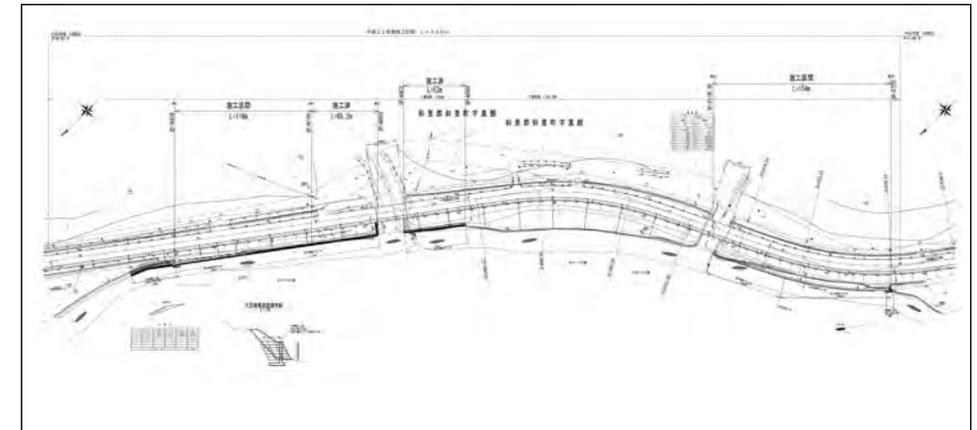


位置図

着工前



着工後



平面図

() 一般国道334号斜里町オチカ改良工事 (北海道開発局)

○事業の背景・目的

一般国道334号は、地域生活をはじめ、地域産業(水産業、観光等)を支える重要な役割を担っている。本事業は、土砂崩落を要因とする通行規制区間において対策を行い、道路交通の安全性及び確実性の向上を図った

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町字真鯉
- ・遺産地域の区分 無
- ・法的規制 無

○事業の概要及び規模 (事業費 227 百万円)

- ・切土工 V=1,200m³
- ・排水工 N=1式
- ・落石防護柵工 L=20m

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

- ・無

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

- ・地形改変を極力少なくなるように配慮した。

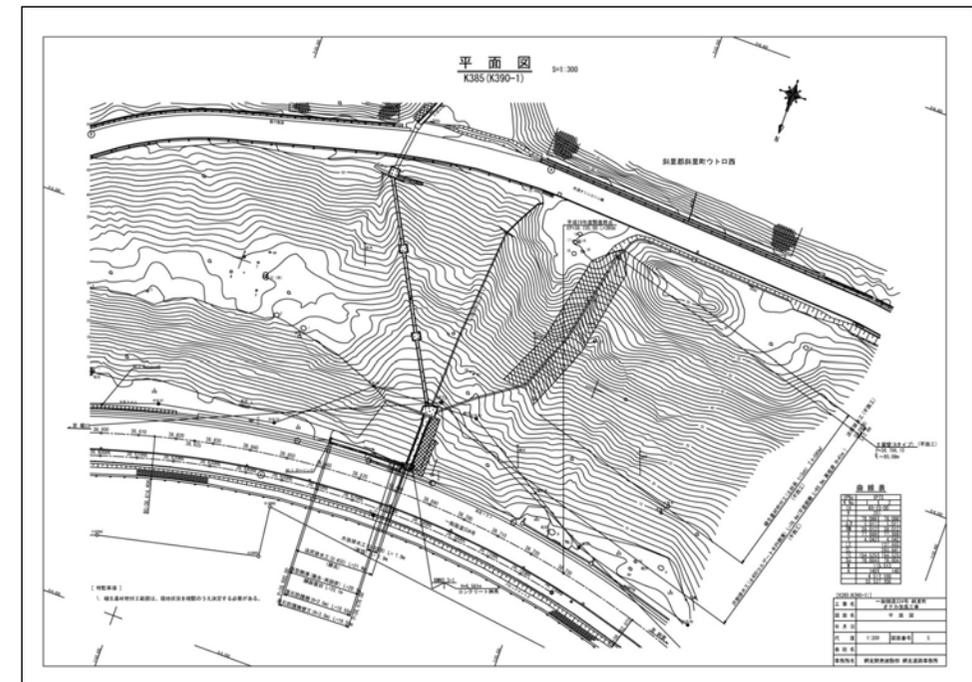
着工前



着工後



位置図



平面図

() イワウベツ川治山ダム改修工事 (北海道森林管理局)

○事業の背景・目的

河川工作物 WG から改良が適当との助言を受けたことから、防災面の維持に加え自然環境との調和と魚類の生態系の回復を目的として施工を行った。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町岩尾別 (イワウベツ川支流赤井川)
- ・遺産地域の区分 世界自然遺産地域 B 地区
- ・法的規制 保健保安林、国立公園第 3 種特別地域、国指定鳥獣保護区 (普通地域)。

○事業の概要及び規模 (事業費 6 2 百万円)

- ・鋼製えん提にスリット設置及び護岸工事等
- ・工事実施期間は、9 月～1 1 月

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

○自然環境保全および利用に関する配慮事項

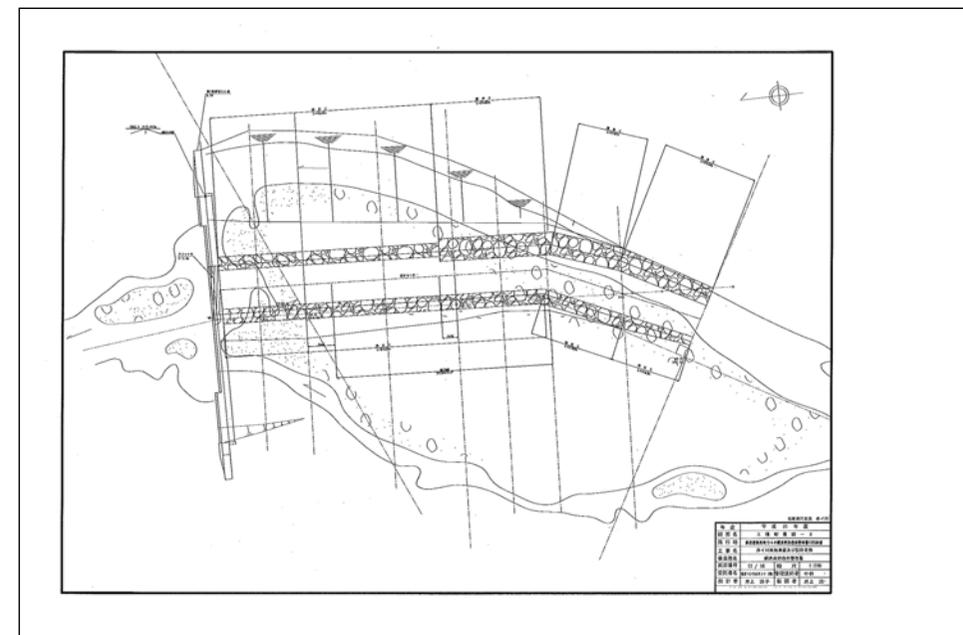
着工前



着工後



位置図



平面図

() 岩尾別カシワ林防鹿柵設置 (北海道森林管理局網走南部森林管理署)

○事業の背景・目的

知床100平方メートル運動地の隣接地であり、カシワ林をエゾシカの被害から守るために防鹿柵を設置。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・ 事業位置 斜里町岩尾別
- ・ 遺産地域の区分 世界自然遺産地域 A 地区
- ・ 法的規制 潮害防備保安林、国立公園第1種特別地域、国指定鳥獣保護区 (普通地域)
- ・

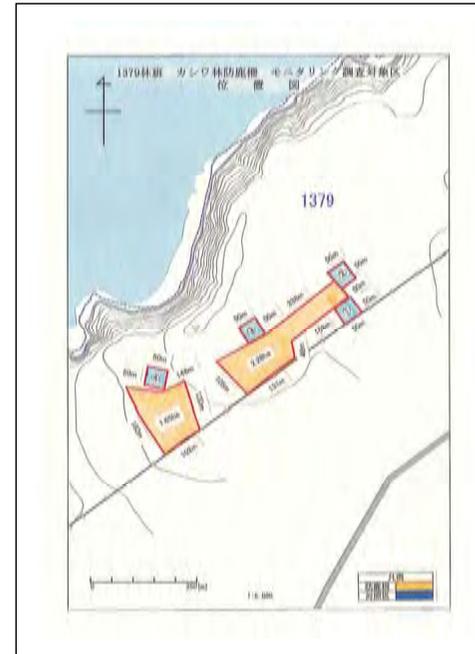
○事業の概要及び規模 (事業費 4 百万円)

- ・ 平成20年度から防鹿柵を設置してきた。同地区に群落として残るカシワ林を守るため新たに防鹿柵を設置した(1.65ha)
- ・ 工事実施期間は、11月～12月

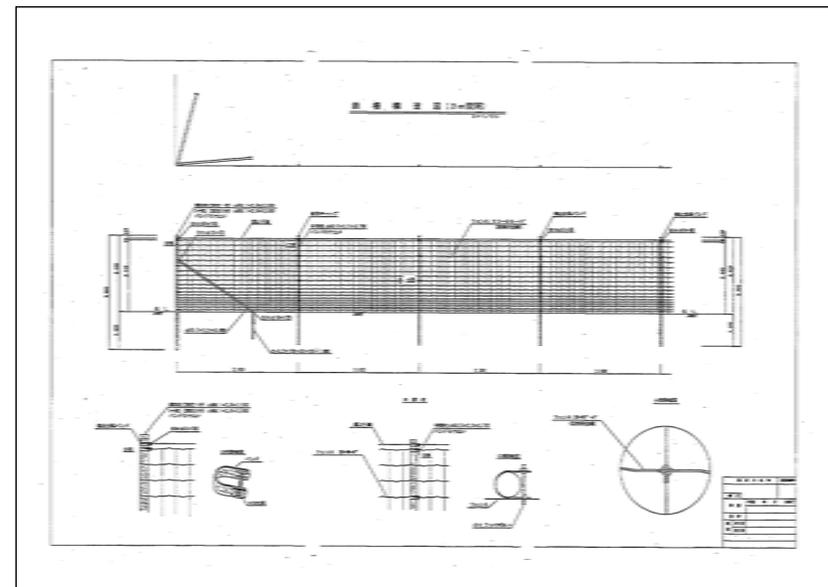
着工前



着工後



位置図



平面図

() 直轄特定漁港漁場整備事業（羅臼地区）（北海道開発局）

○事業の背景・目的

羅臼漁港は、サケ定置網漁業を中心とした地域水産業の拠点として、また根室海峡周辺漁場で操業している漁船の避難港として重要な役割を担っています。現在、慢性的な係留施設等の不足解消とともに、近年の食の安全に対する消費者ニーズの高まりを踏まえ、衛生管理の高度化に対応した屋根付岸壁等の施設整備を行い、安全・安心な水産物の安定供給を確保するための漁港づくりなど漁業情勢等に応じた整備を行っています。

○事業位置及び法的規制の有無

・事業位置 羅臼町羅臼漁港

○事業の概要及び規模（事業費 474 百万円）

- ・-3.5m 岸壁 1 式（低温清浄海水導入施設の送水管敷設）
- ・-4.0m 岸壁（改良） 155m（本体工他） ・-4.0m 岸壁（補修） 67.2m（本体工他）
- ・道路（補修） 35m（舗装工）

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

- 【H21 実施】
- ・-3.5m 岸壁 1 式（低温清浄海水導入施設の送水管敷設）
 - ・-4.0m 岸壁（改良） 1 式（本体部築造）
 - ・-4.0m 岸壁（補修） 1 式（エプロン舗装）
 - ・道路 1 式（照明灯設置） ・用地 1 式（防塵処理）

- 【H23 継続】
- ・-3.5m 岸壁 1 式（低温清浄海水導入施設の送水管敷設）
 - ・-4.0m 岸壁（改良） 1 式（屋根部材製作工他）
 - ・-4.0m 岸壁（補修） 32.2m（本体工他）
 - ・道路（補修） 127m（舗装工）

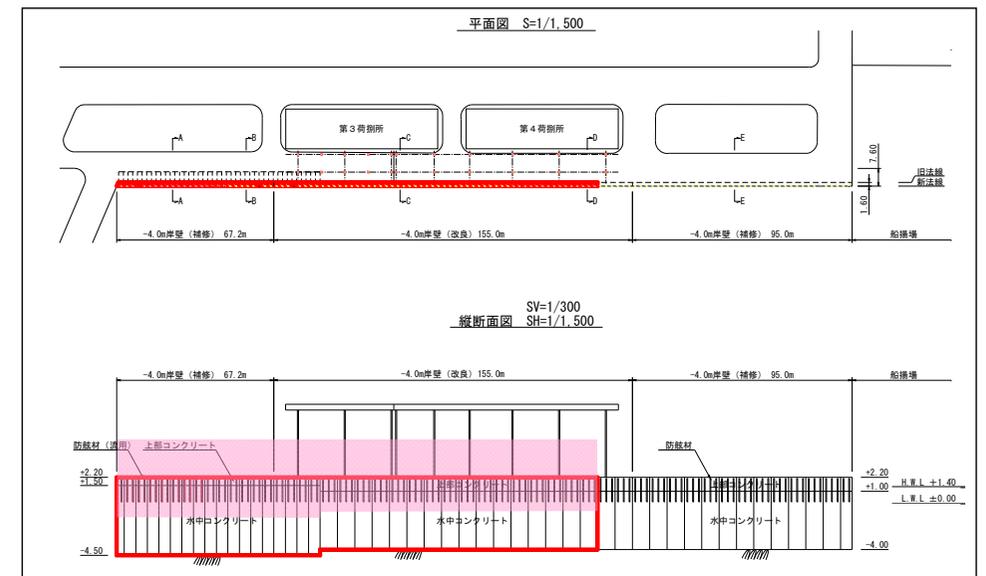
着工前



着工後



位置図



平面図

() 直轄特定漁港漁場整備事業(ウトロ地区)(北海道開発局)

○事業の背景・目的

ウトロ漁港は我が国有数のサケ・マス生産流通拠点であるとともに、知床観光の拠点となっています。現在、知床観光船・観光客と漁業活動の輻輳や背後用地の不足、水産物の衛生管理対策が不十分な状況であることから、漁業活動の効率化、衛生管理の高度化、観光拠点機能も有した漁港施設の整備を行っています。

○事業位置及び法的規制の有無

- ・事業位置 斜里町ウトロ漁港

○事業の概要及び規模(事業費2,107百万円)

- ・島防波堤 1式(上部工他)
- ・-3.5m岸壁 1式(取水施設基礎工)
- ・用地(人工地盤) 1式(PC工他)

○過去からの継続および次年度以降の予定の有無

【H21 実施】

- ウトロ地区・島防波堤 1式(上部工他)
- ・道路 1式(人工地盤スロープ上部他)
- ・用地(人工地盤) 1式(基礎工他)
- ・中護岸 1式(舗装工)
- 知床岬地区・船揚場(改良) 1式(付属工)

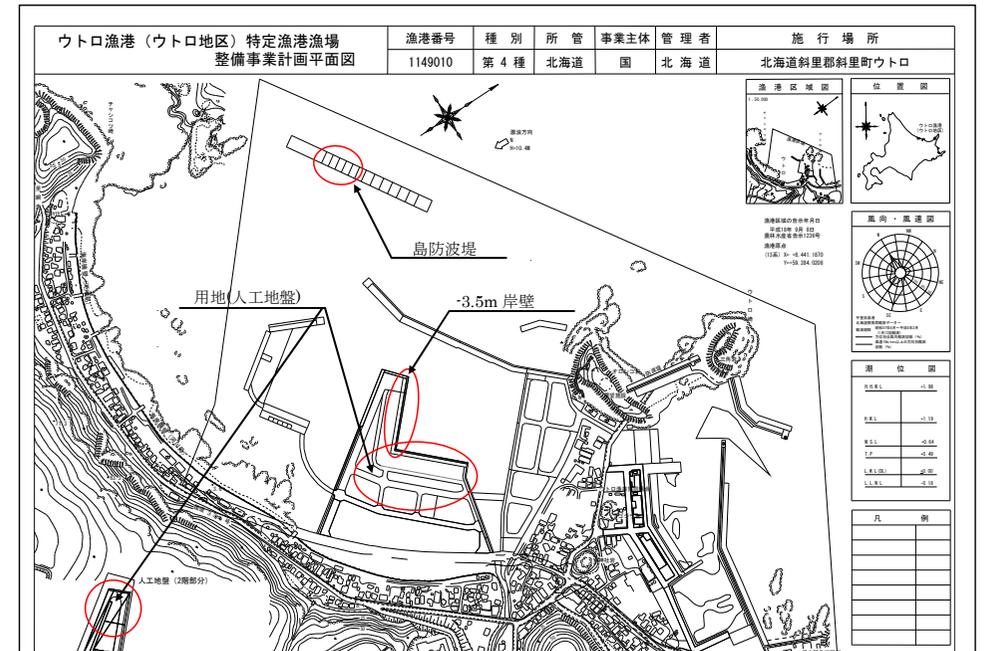
【H23 継続】

- ・-3.5m岸壁 1式(取水施設基礎工)
- ・-5.0m岸壁 1式(舗装工他)
- ・用地 1式(基礎工他)

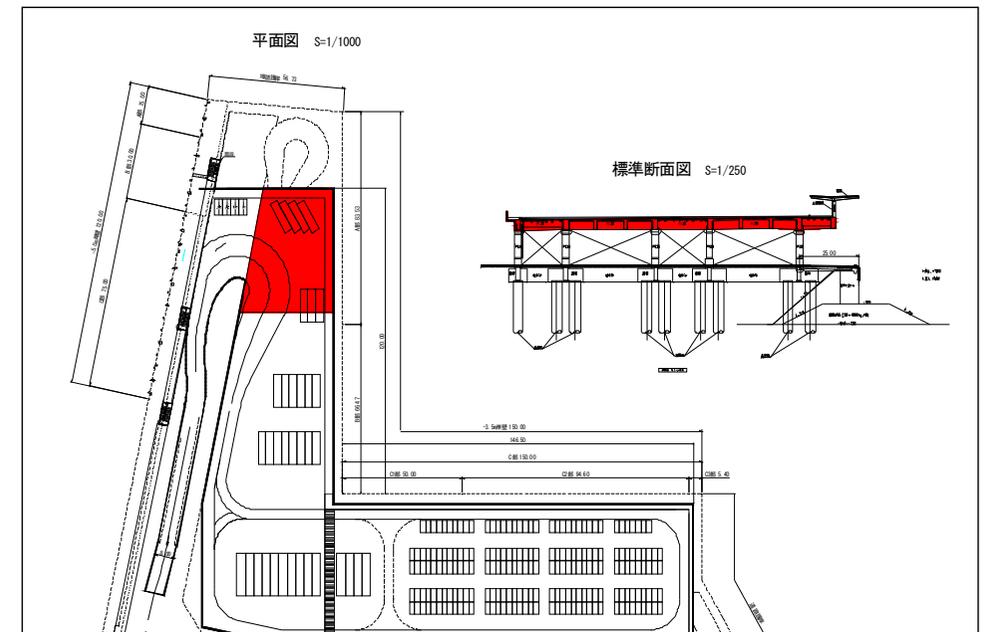
着工前



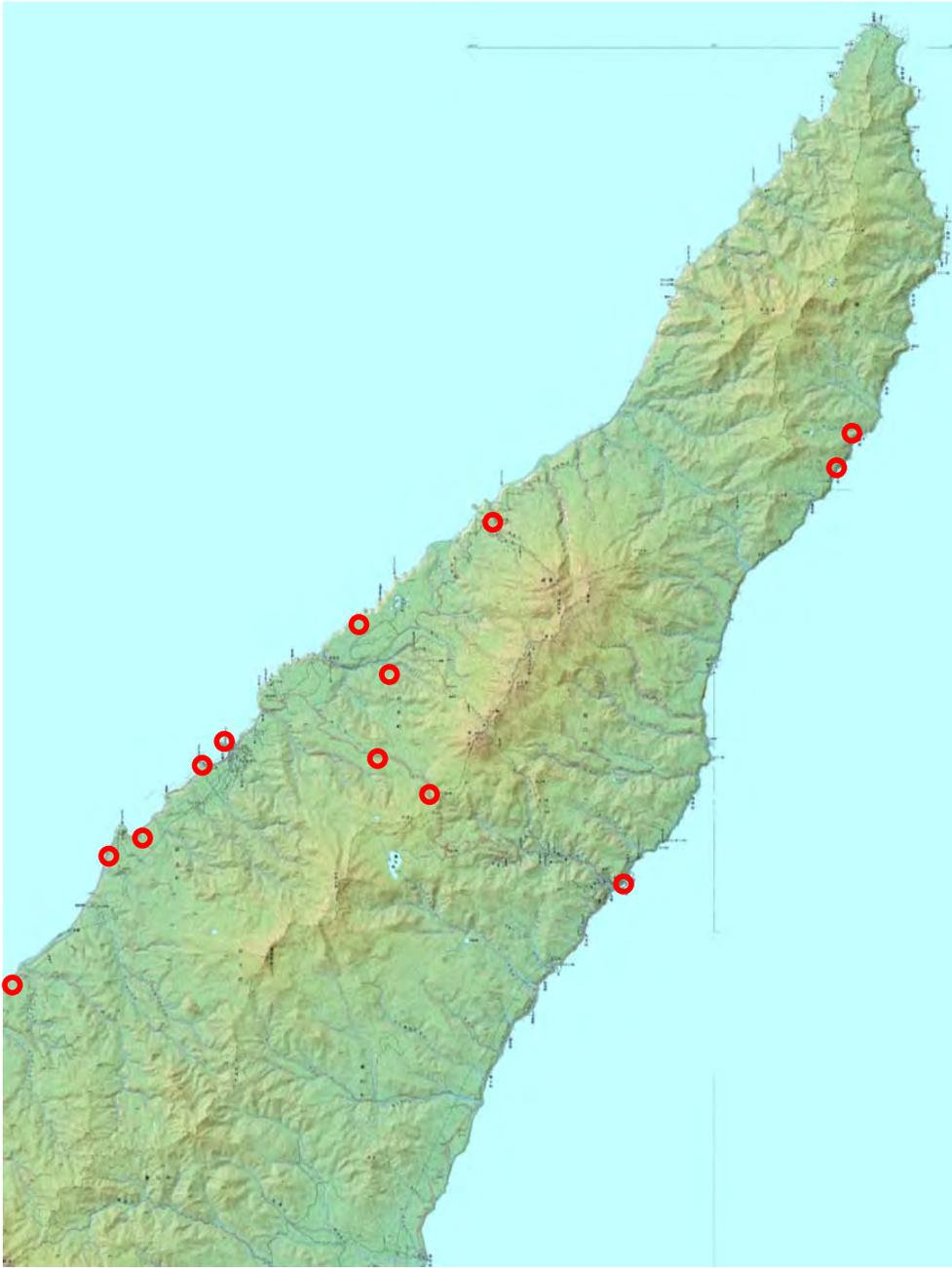
着工後



位置図



平面図



3. 知床地域の保安全管理（ソフト事業）の状況

(1) 長期モニタリング

No.	調査名	H22 年度	ページ
1	衛星リモートセンシングによる水温・流水分布・クロロフィル a の観測		
2	海洋観測ブイによる水温の定点観測		
3	アザラシの生息状況の調査	○	
4	海域の生物相、及び、生息状況（浅海域定期調査）		
5	浅海域における貝類定量調査		
6	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査		
7	エゾシカの影響からの植生の回復状況調査(林野庁1ha 囲い区)		
8	エゾシカの影響からの植生の回復状況調査（環境省知床岬囲い区）		
9	エゾシカの採食圧の把握に関する広域植生調査	○	
10	シレットコスミレの定期的な生育・分布状況調査		
11	エゾシカ越冬群の広域航空カウント	○	
12	陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況(外来種侵入状況調査含む)		
13	陸生鳥類生息状況調査		
14	中小大型哺乳類の生息状況調査(外来種侵入状況調査含む)		
15	広域植生図の作成		
16	河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数モニタリング		
17	淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオシヨロコマの生息状況(外来種侵入状況調査含む)		
18	利用実態調査		
19	ヒグマの目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査	○	
20	気象観測		
21	海ワシ類の越冬個体数の調査		
22	シマフクロウの生息数、繁殖の成否、繁殖率と巣立ち幼鳥数、餌資源などに関する調査。標識や発信機装着による移動分散調査。死亡・傷病個体調査と原因調査		

①	航空機による海水分布状況調査	○	
②	アイスアルジーの生物学的調査		
③	「北海道水産現勢」からの漁獲量の変動の把握	○	
④	スケトウダラの資源状態の把握と評価	○	
⑤	スケトウダラ産卵量調査		
⑥	トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性	○	
⑦	トドの被害実態調査	○	
⑧	オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング		
⑨	全道での海ワシ類の越冬個体数の調査		
⑩	海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析	○	
⑪	エゾシカの主要越冬地における地上カウント調査(哺乳類の生息状況調査を含む)	○	
⑫	エゾシカの間引き個体、自然死個体などの体重・妊娠率など個体群の質の把握に関する調査	○	

3 アザラシの生息状況の調査

資料名	海棲ほ乳類生息状況調査業務報告書(平成22年度)
調査主体・事業費	北海道・2,090千円
評価項目	
管理目標	
評価指標	
評価基準	

<平成22年度の具体的調査手法[隔年度実施]>

海上(船によるライントランセクト)及び上空(ヘリセンサス)から目視による確認調査

<平成22年度の具体的調査データ>

(上空からのセンサス結果)

調査日	発見アザラシ類	個体数	備考
3/12	なし		
3/13	ゴマフアザラシ	2	全て網走湖結氷上

(海上からのセンサス結果)

調査日	アザラシ類			備考
	上陸	遊泳	合計	
3/21	2	3	3	上陸2頭は羅臼港内 ツチクジラ10頭
3/26	14 (1)	6 (1)	20 (2)	上陸はゴマフ7頭(うち親子1組) クラカケアザラシ6頭 遊泳はゴマフ3頭 クラカケアザラシ2頭

<コメント>

- ・ヘリセンサスは流氷の状況に依存し、今回の調査では流氷が少なかったこと、および流氷に海面がないのっぺりした(密接度が高い)状況であったため、アザラシが発見されなかったと考えられた。
- ・知床半島の羅臼側では流氷上でゴマフアザラシとクラカケアザラシが確認された。
- ・3/26にその日生まれのゴマフアザラシの親子を発見した。同個体を同じ夕方にも発見したが、流氷の位置は3,000mほどずれていた。また、観察していたところ、Pupは海水に入るのを嫌がり、また海水に入っても潜りはせず、頭を海上に上げて泳いでいるのみであった。また、夕方には、親子と雄の3個体が一緒にしているが見られた。
- ・成獣雌のクラカケアザラシが、3/26にお腹がパンパンであったため、数日後には出産するものと考えられた。
- ・流氷上のゴマフアザラシとクラカケアザラシは、流氷上の分布がわかれていた。比較的ゴマフアザラシの方が流氷の密接度が低いところでの発見が多かった。

9 エゾシカ広域採食圧調査

資料名	知床における森林生態系保全・再生対策事業（広域調査）報告書
調査主体・事業費	林野庁北海道森林管理局（約150万円）
評価項目	
管理目標	
モニタリング項目	
評価指標	
評価基準	

<平成22年度の具体的調査手法>

平成21年度のエゾシカWGの経緯を踏まえ、平成22年度のエゾシカ広域採食圧調査については、林野庁及び環境省が実施した調査仕様の異なる69箇所の調査区データの統合・再分析、半島全域における調査区配置の再検討及び統一フォーマットの作成を実施。

<平成22年度の具体的調査データ>

○調査区データの統合

過去の報告書よりデータを収集し、広域採食圧調査地69箇所のデータを項目ごとに整理しデータを統合。

○統合データを用いた再分析

分析に当たっては、エゾシカの利用可能資源可能性として、立木現存量、樹皮面積、下枝密度、稚樹密度、ササ現存量及び林床植生量を集計し、実際のシカの利用状況として、樹皮、下枝、稚樹の被食率を算出の上、傾向を分析。

○効率的な影響把握のためのモニタリング箇所の再選定と再配置

選定に当たっては、エリア配分、存続させる調査区及び新規に設定する調査区を考察し、既存調査区のうち32区、新設32区の合わせて64区を候補とした（表1）。

○今後使用する統一フォーマットの作成

エゾシカ採食圧調査成果の汎用性を確保するため、調査仕様、時期、個別の箇所における留意事項等を含めた統一フォーマットを作成。

<コメント>

平成23年度の広域採食圧調査については、本事業の成果を踏まえ、新規に設定する32箇所の固定調査区の設定及び調査を実施。また、調査手法についても、統一フォーマットにより実施。

<評価>

平成23年度から統一フォーマットに基づいた調査を実施することから、今後は汎用性に富んだエゾシカ採食圧の影響の評価を得ることが期待される。

図1



図1 エリアごとの調査区の配分（水色は300m以上の区域、+nは新規に追加する調査区数

11 エゾシカ越冬群の広域航空カウント

資料名	平成 22 年度知床生態系維持回復事業 エゾシカ捕獲手法調査業務
調査主体・事業費	環境省
評価項目	
管理目標	
評価指標	
評価基準	

<平成 22 年度の具体的調査手法>

ヘリコプターで低空を飛行し、目視によりエゾシカ個体数と群れの位置を記録し、越冬個体の分布特性や生息数の動向を「平成 14 年度知床国立公園生態系保全管理等の充実に向けた基盤整備事業」で得られた結果と比較し、その変化を把握した。

<平成 22 年度の具体的調査データ>

エゾシカ総発見数は、3,930 頭であり、77%が半島西側（斜里町側）で確認され、東側（羅臼町標津町側）に比べ西側に多い傾向があった。

<コメント>

エゾシカ総発見数の 77%が半島西側（斜里町側）であったという、東側（羅臼町標津町側）よりも西側で発見割合が高いという傾向は、前回 2003 年の調査時より顕著となった。地区別には、知床岬と斜里町基部で 2003 年よりも減少傾向が認められたほか、斜里町幌別岩尾別を中心とした地域で増加傾向にあった。一方、羅臼町側におけるエゾシカ発見数は、どの地区においても 2003 年から大きな変化は認められなかった。

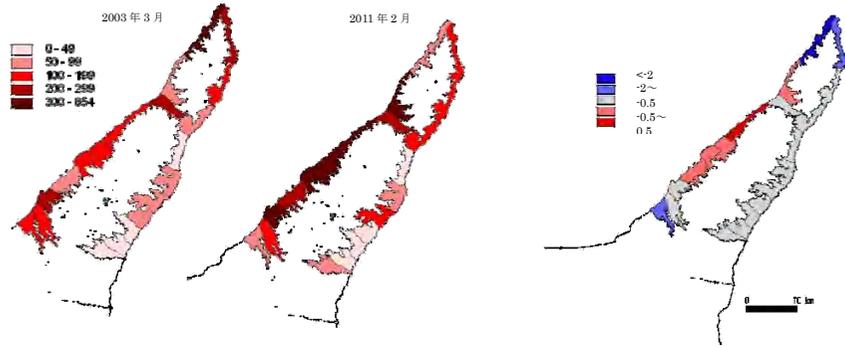


図 知床半島エゾシカヘリカウント調査の経年比較。2003 年 3 月（左）、2011 年 2 月（右）

図 知床半島エゾシカヘリカウント調査の経年比較。

$((2011 \text{ 年値}) - (2003 \text{ 年値})) / (t \text{ 検定標準偏差})$ で表し、青が減少傾向、赤が増加傾向、灰色はほぼ変化なし。

21 ヒグマの目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査

資料名	平成 22 年度国立公園等民間活用特定自然環境保全活動（グリーンワーカー）事業「知床世界遺産地域における利用の適正化と野生生物との共生推進業務」報告書、斜里町ヒグマ管理対策事業業務報告書、羅臼町ヒグマ管理対策業務報告書
調査主体・事業費	環境省、斜里町、羅臼町
評価項目	
管理目標	
評価指標	
評価基準	

<平成 22 年度の具体的調査手法>

ヒグマの出没状況は、地元住民や観光客などからの聞き取りによりアンケート形式で情報を収集した。アンケート用紙はヒグマを目撃した場所、日時、状況、個体の特徴等を記入するもので、知床国立公園内にある主要な施設（知床自然センター、知床世界遺産センター、知床五湖レストハウス、木下小屋、羅臼ビジターセンター、ルサフィールドハウス）に配置した。なお、斜里側のヒグマ観察を目的とした観光船による洋上からの目撃や、少数の漁業番屋しか存在しない斜里町側の知床大橋から知床岬までの間で記録された人間との軋轢を伴わない目撃については対象としていない。2010 年のヒグマ目撃は 3 月から始まったため、集計を 2010 年 3 月から 2011 年 2 月末の期間で行った。

<平成 22 年度の具体的調査データ>

知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内におけるヒグマ目撃件数は 649 件（斜里側 509 件、羅臼側 140 件）、ヒグマ対策活動の実施件数は 379 件（斜里側 311 件、羅臼側 68 件）であった。

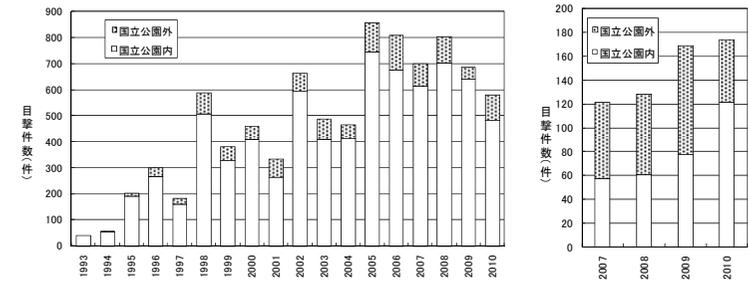


図. 斜里町（左）、及び羅臼町（右）における国立公園内外のヒグマ目撃件数。

<コメント>

斜里町では 2005 年より 700 件から 800 件の高い水準で推移していたものの、2008 年より 2 年連続で 100 件超の減少が続いている。今後、この減少傾向が継続するのかを注視していく必要がある。一方、羅臼町においては 2007 年に 121 件だったものが 2010 年には 174 件に達しており増加傾向にある。利用者の安全確保とヒグマの保全を両立させるためには、従来のヒグマ対策活動の継続に加え、利用者の行動や利用をコントロールできる仕組みやルール作りといった知床国立公園の利用適正化を積極的に推進していくことが必要である。また、知床半島に生息するヒグマ個体群を維持していく為、知床半島全体を対象とした管理が必要である。

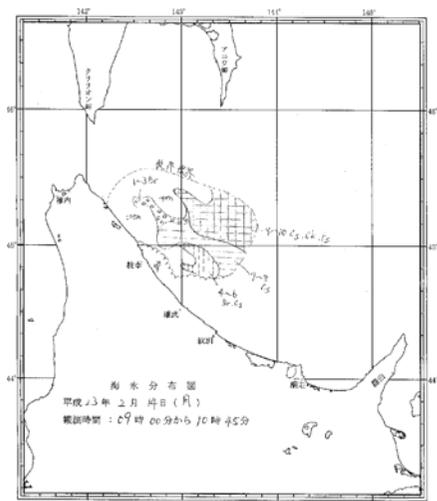
① 航空機による海水分布状況観測

資料名	平成22年度オホーツク海南西海域海水観測報告書
調査主体・事業費	第一管区海上保安部
評価項目	
管理目標	
評価指標	
評価基準	

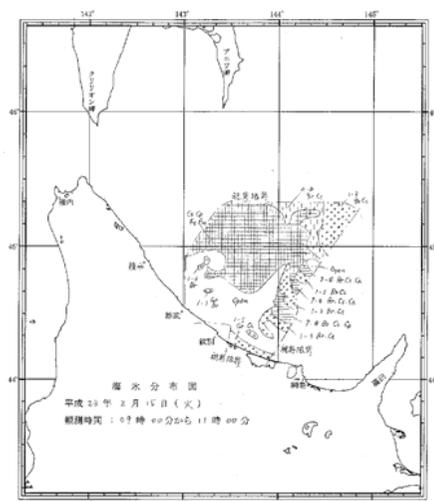
<平成22年度の具体的調査手法>

航空機による目視観測

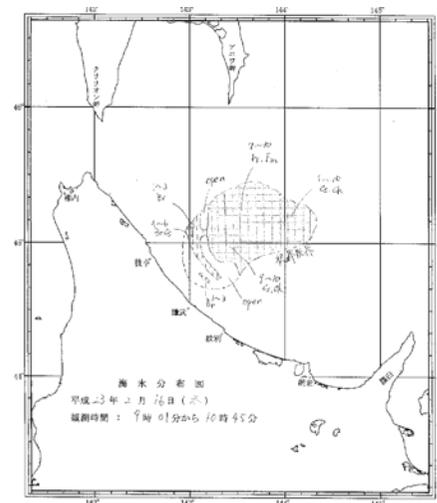
<平成22年度の具体的調査データ>



↑ 平成23年2月14日



↑ 平成23年2月15日



↑ 平成23年2月16日

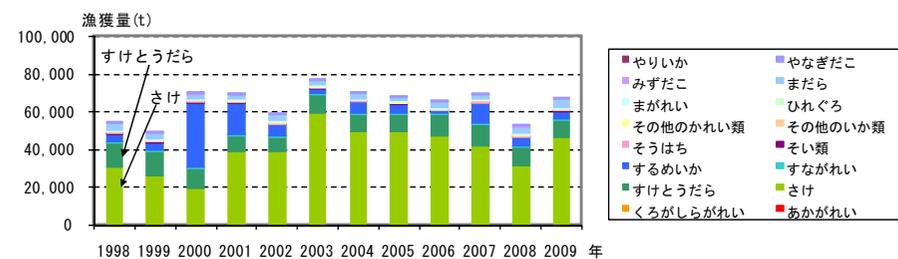
③ 「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握

資料名	平成21年北海道水産現勢
調査主体・事業費	北海道
評価項目	
管理目標	
評価指標	
評価基準	

<平成22年度の具体的調査手法>

各漁協から魚種ごとの漁獲量等を調査

<平成22年度までの具体的調査データ>



遺産地域内海域に生息する主要な魚介類の年度別漁獲量

○年度別漁獲量 (単位: トン)

	サケ	
	斜里町	羅臼町
1998年	19,614	10,880
1999年	15,071	10,881
2000年	10,672	8,755
2001年	20,152	18,844
2002年	19,085	19,756
2003年	31,872	27,581
2004年	27,304	22,163
2005年	29,990	19,578
2006年	29,999	17,566
2007年	25,352	16,605
2008年	20,078	11,192
2009年	32,261	14,026

スケトウダラ

	スケトウダラ	
	斜里町	羅臼町
1998年	42	13,910
1999年	17	13,939
2000年	24	10,869
2001年	18	8,637
2002年	20	8,138
2003年	76	10,077
2004年	53	9,951
2005年	32	9,637
2006年	19	11,319
2007年	37	11,849
2008年	48	10,234
2009年	113	9,738

④ スケトウダラの資源状態の把握と調査

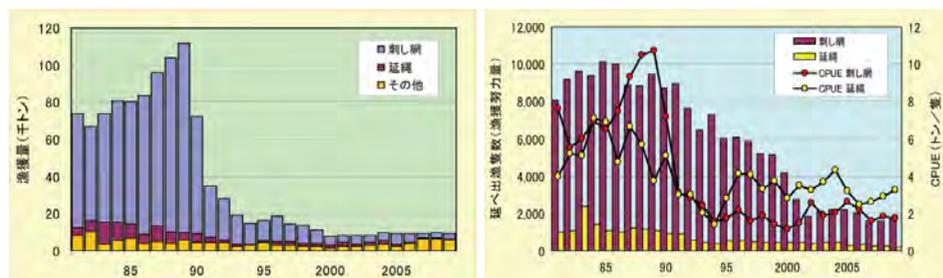
資料名	我が国周辺水域の漁業資源調査(平成22年度)
調査主体・事業費	水産庁
評価項目	
管理目標	
評価指標	
評価基準	

<平成22年度の具体的調査手法>

日本漁船による漁獲量や単位当たり漁獲努力量(C P U E)、漁獲物の年齢組成を基に、これまでに得られているロシア側の情報を考慮して資源状態を推定

<平成22年度までの具体的調査データ>

根室海峡における2009年度の漁獲量は、9.5千トンとほぼ前年並みであった(2008年度は9.9千トン)



*図出典：水産庁「平成22年度 我が国周辺水域の漁業資源評価 ダイジェスト版」

<コメント>

資源の水準は低位、動向は横ばいと判断

⑤ トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性

資料名	平成21年度トド資源調査(年度は「トド年度」…平成21年10月～平成22年6月)
調査主体・事業費	全国漁業協同組合連合会・
評価項目	
管理目標	
評価指標	
評価基準	

<平成22年度までの具体的調査手法>

航空機からの目視調査

<平成22年度の具体的調査データ>

平成21年度調査結果概要

(1) 来遊状況

航空機からの目視調査

- ・平成22年4月15～25日
- ・全域で計81群101頭を確認

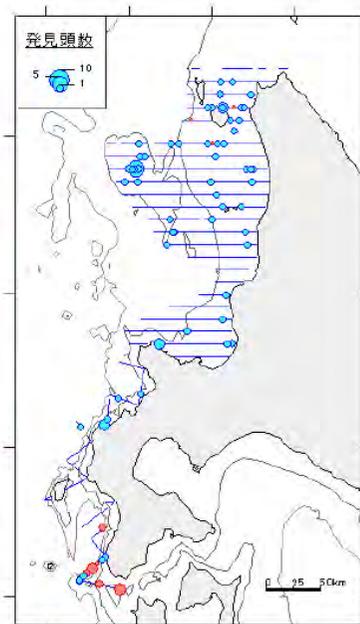
航空機目視調査に基づく来遊数推定

過去5年間の結果をもとに、北海道に冬期来遊するトドの個体数を以下のように推定した

- ・日本海 5,800頭(4,377-7,686頭、95%信頼区間)
- ・根室海峡 平均92.6頭(53-123頭)

*ただし、採捕枠管理のための人為的死亡許容頭数の推定には60%信頼区間の下限値である5,157頭(日本海・根室海峡計)を用いる

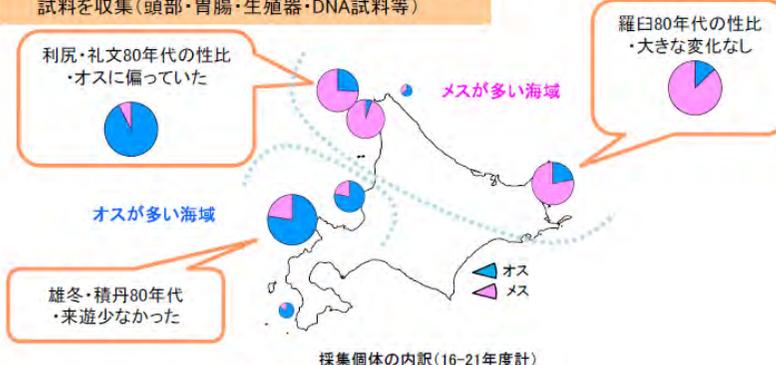
調査測線とトド発見位置 ▶
 ● トド発見位置
 ● イルカ・不明種発見位置
 — 探索経路



(2) 来遊個体の特性

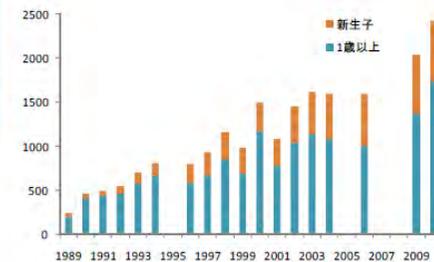
採捕・漂着・混獲個体からの試料採集

- ・平成20年11月～平成21年4月までに合計29個体から試料を収集(頭部・胃腸・生殖器・DNA試料等)



採集個体の内訳(16-21年度計)

- ・トドはオスの方がメスより長距離を移動すると思われる
- ・1980年代後半から始まったサハリン島東岸のチュレニー島の個体数増加や、近年のサハリン島周辺の上陸場形成が、日本海側のトド分布拡大や性比に影響したのでは？



チュレニー島の個体数変化
 (2009-10年は本調査、それ以前はBurkanov and Loughlin 2005より)

⑥ トドの被害実態調査

資料名	平成21年度トド資源調査(年度は「トド年度」…平成21年10月～平成22年6月)
調査主体・事業費	全国漁業協同組合連合会
評価項目	
管理目標	
評価指標	
評価基準	

<平成22年度までの具体的調査手法>

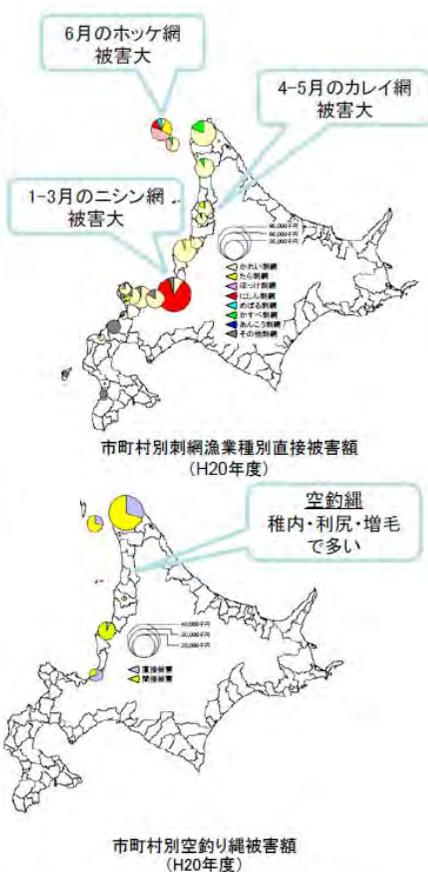
地方公共団体が漁協より聴取して集計した資料の解析

<平成22年度までの具体的調査データ>

(4) 漁業への影響評価

被害統計のまとめ

- ・北海道庁が集計する被害統計資料を解析
- ・トドによる被害額は全道で13億円を超える
→H21年度はやや減少
- ・刺網の被害が大きい



⑩ 海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析

資料名	海洋汚染調査報告 第37号
調査主体・事業費	海上保安庁海洋情報部
評価項目	
管理目標	
評価指標	
評価基準	

<平成21年度の具体的調査手法>

オホーツク海の調査で採取した海水及び海底堆積物の石油、P C B, 重金属等を分析

<平成21年度の具体的調査データ>

オホーツク海域の海水調査結果

(単位: $\mu\text{g/L}$)

	平成21年(2009)			過去の平均、最小及び最大値 (平成11~20年)			基準値
	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	
石油	0.09	0.08	0.10	0.08	<0.05	0.30	—
カドミウム	0.018	0.011	0.031	0.030	0.004	0.065	10.00
水銀	<0.0005	<0.0005	0.0007	0.0009	<0.0005	0.0045	0.5

オホーツク海域の海底堆積物調査結果

(単位: $\mu\text{g/g-dry}$)

	平成21年(2009)		過去の最小及び最大値 (平成11~20年)		基準値
	最小値	最大値	最小値	最大値	
石油	0.4	7.5	<0.1	8.3	なし
PCB	0.0009	0.0098	0.0003	0.0078	
カドミウム	0.011	0.085	0.004	0.10	
水銀	0.038	0.076	0.030	0.072	
銅	20	33	17	38	
亜鉛	55	93	43	98	
クロム	130	210	68	236	
鉛	11	21	10	22	

<コメント>

表面海水は、すべての項目とも、過去10年と比較しほぼ同じ濃度レベルで推移している。海底堆積物は、すべての項目とも、過去10年と比較しほぼ同じ濃度レベルで推移している。

⑪ エゾシカの主要越冬地における地上カウント調査（哺乳類の生息状況調査を含む）

資料名	平成22年度エゾシカライトセンサス調査業務
調査主体・事業費	北海道・5,980千円
評価項目	
管理目標	
評価指標	
評価基準	

<平成22年度の具体的調査手法>

※調査はシカ年度(6月から翌年5月まで)単位で実施

越冬地	調査手法	調査距離	調査時期	調査実施主体
羅臼峯浜	ライトセンサス	約27km	10月中旬	北海道

<平成22年度(H22シカ年度)の具体的調査データ>

○峯浜地区

平成22年10月に2コースで実施した。牧草地コース4.3頭/km、森林コース1.2頭/km。

⑪エゾシカの主要越冬地における地上カウント調査

資料名	平成 23 年度第 1 回エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ会議資料
調査主体・事業費	環境省、斜里町、羅臼町
評価項目	
管理目標	
評価指標	
評価基準	

<平成 22 年度の具体的調査手法>

表. 斜里、及び羅臼町において実施されているエゾシカカウント調査の概要

越冬地	調査手法	調査距離	調査時期	調査実施主体
幌別・岩尾別	ライトセンサス	9.5km	春、秋	斜里町
ルサ・相泊	ライトセンサス	10.4km	春、秋	羅臼町・知床財団
	日中センサス	10.4km	12~4 月	羅臼町・知床財団
真鯉	日中センサス	約 10km	12~5 月	知床財団
羅臼峯浜	ライトセンサス	約 10km	10 月末	北海道

※調査はシカ年度（6 月から翌年 5 月まで）単位で実施

<平成 22 年度の具体的調査データ>

○幌別・岩尾別地区（図参照）

平成 23 年の春は幌別、岩尾別がそれぞれ 12.9 頭/km、10.6 頭/km であった。前年の同時期の調査結果は 15.8 頭/km と 8.0 頭/km であった。

○ルサ・相泊地区

ライトセンサスでは、平成 22 年秋と平成 23 年春にそれぞれ 5 回実施し、12.1 頭/km、及び 19.4 頭/km であった。平成 21 年春の 24.6 頭/km と比較し、わずかに少なかった。

日中センサスは平成 23 年 3 月に 2 回実施し、27.7 頭/km が最大であり、前年同期の最大確認頭数であった 45.0 頭/km よりも著しく少なかったが、前々年の 28.9 頭/km とほぼ同じ水準であった。

○真鯉地区

平成 23 年 2 月上旬から増加し始め、3 月上旬に 505 頭（42.1 頭/km）と最も多くなった。前年の最大確認頭数である 664 頭よりも 159 頭少なかった。

○峯浜地区

平成 22 年 10 月に実施し、牧草地コース 4.3 頭/km、森林コース 1.2 頭/km であった。前年同期には、牧草地コース 3.3 頭/km、森林コース 0.8 頭/km であり、両コースともに平成 22 年の方がやや多かった。

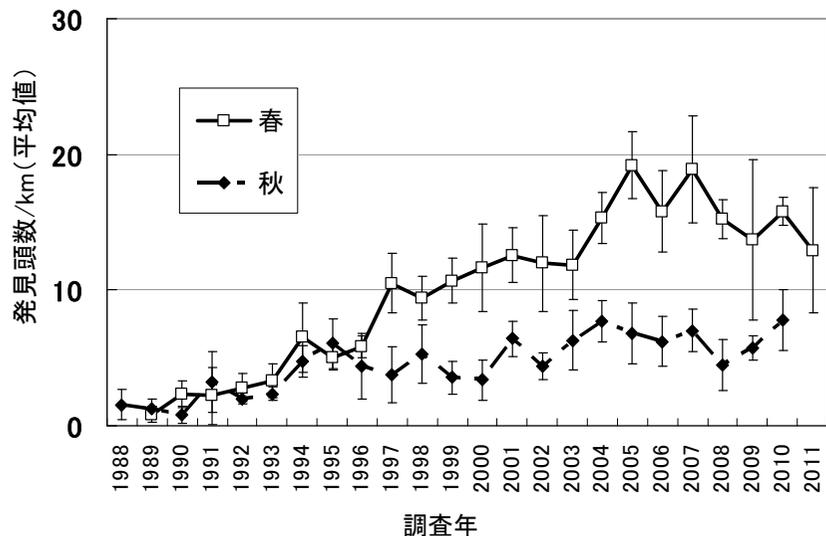


図. 幌別地区におけるライトセンサスによるシカ発見頭数（斜里町資料）。

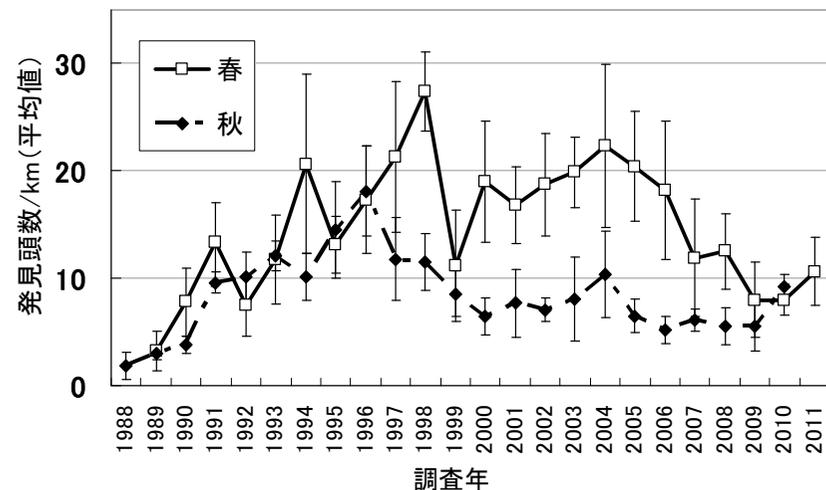


図. 岩尾別地区におけるライトセンサスによるシカ発見頭数（斜里町資料）。

<コメント>

1980 年における知床半島の平均密度は 0.93~0.97 頭/k m²（知床半島自然生態系総合調査報告書（動物編）, 1981）であり、80 年代と比較して高い水準にあると考えられる。

⑫エゾシカの個体群の質の把握に関する調査

資料名	平成 23 年度第 1 回エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ会議資料
調査主体・事業費	知床財団、斜里町、羅臼町
評価項目	
管理目標	
評価指標	
評価基準	

<平成 22 年度の具体的調査手法>

自然死亡数の把握

越冬地	調査実施主体	調査時期
知床岬	知床財団	春期
ルサー相泊	知床財団、羅臼町	冬期～春期
幌別一岩尾別	知床財団、斜里町	冬期～春期
ウトロ～真鯉	知床財団、斜里町	冬期～春期

※調査はシカ年度単位で実施

<平成 22 年度の具体的調査データ>

平成 23 年春知床岬では 0 体（ただし、実施時期が例年より遅かった）、ルサー相泊 2 体、幌別一岩尾別 13 体、ウトロ～真鯉 1 体であった。斜里側では他にクマ捕殺による死亡が 1 体、死因不明 6 体あった。

<コメント>

平成 22 年春の自然死亡個体の確認数は、知床岬 1 体、ルサー相泊 6 体、幌別一岩尾別 4 体、ウトロ～真鯉 1 体であった。知床岬地区においてエゾシカ自然死亡確認数が最大であった 2005 年は約 150 体であったことを考慮すると平成 22 年春、及び平成 23 年春の自然死亡数は極めて少ないと言える。しかし、知床岬密度操作実験によって捕獲したシカの死体のほとんどがヒグマの被食を受けている状況から、シカの自然死体発見の少ない理由が、ヒグマの被食にある可能性がある。

(2) ソフト事業の実施状況

No.	主体・事業費	名称	概要
1	林野庁	知床半島緑の回廊における猛禽類調査	クマタカ等の生息エリアの特定と営巣状況に関するデータの把握を行った。 3 科 9 種の猛禽類が確認され、採餌環境及びオジロワシ、クマタカの繁殖利用域が推定された。
2	林野庁 (約 4 6 0 万円)	知床岬先端部の詳細な植生図 (1/5000) の作成	硫黄山以南より遠音別岳に至る森林及び草地の植生図を作成した。
3	林野庁 (約 3 6 0 万円) 北海道	河川工作物改良によるサケ科魚類遡上効果確認調査	改良工事を実施したイワウベツ川 (支流赤イ川で H18・1 基及び H22・1 基、支流ピリカベツ川で H19・2 基)、ルシャ川 (H18・2 基)、サシルイ川 (H19・2 基) チエンベツ川 (H20・1 基) について、サケ科魚類の遡上効果を確認するためのモニタリング調査を実施した。 赤イ川、ルシャ川、サシルイ川及びチエンベツ川では、改良により遡上が容易になっている状況が確認された。
4	北海道	隣接地区 (真鯉地区含む) における狩猟による捕獲	連続して捕獲圧をかけ続けることによる捕獲効率の低下を防止する方策の試行、および継続的な人の立ち入りによる希少猛禽類への影響緩和を目的として、一部の区域において可猟期間に中断期間を設定して実施
5	羅臼町	知床岬クリーンボランティア	羅臼町と町内の N P O 法人との共催により、知床岬での海岸清掃を 3 回実施。61 名の参加で 523kg を回収。
6	知床財団	ニジマスやブラウントラウトなどの外来種の侵入状況を把握する調査	遺産地域内の河川において、潜水目視観察において、外来魚の有無を調査した。

(3) 巡視等の実施状況

区分	環境省	林野庁	北海道
巡視区域	知床世界遺産地域	知床世界遺産地域及び隣接地域	知床世界遺産地域及び隣接地域（斜里・羅臼町内）
巡視体制	環境省職員 人 アクティブレンジャー 人 サブレンジャー 人 自然公園指導員 人 国指定鳥獣保護区管理員 人	林野庁職員 14 人 グリーンサポートスタッフ 7 人	自然保護監視員 4 人 鳥獣保護員 2 人
巡視実績	環境省職員 延べ 人日 アクティブレンジャー 延べ 人日 サブレンジャー 延べ 人日 自然公園指導員 人日 国指定鳥獣保護区管理員 延べ 人日	林野庁職員 延べ 256 人日 グリーンサポートスタッフ 延べ 747 人日	自然保護監視員 延べ 91 人日 鳥獣保護員 延べ 67 人日
巡視内容	適正な利用や管理についての指導や施設の点検、清掃等	森林現況の把握、標識等の点検・修理、美化啓発、山火事予防啓発、危険木の処理等の国有林の管理及び入林者の指導	適正な利用や管理についての指導

(4) 普及啓発

① イベント

番号	主体	名称
	環境省	知床国立公園における環境教育
開催日	平成 22 年 5 月～平成 23 年 3 月（この期間内に 5 回）	
参加人数	167 名（5 回開催の合計）	
内容	第 1 回：森づくりの現場から（知床財団 松林良太）羅臼高等学校 第 2 回：根室海峡のクジラ・イルカ（知床クジラの会 佐藤晴子）羅臼 VC 第 3 回：北方四島と知床（北の海の動物センター理事 本間浩昭）羅臼 VC 第 4 回：使って守る地域資源戦略のための専門家（北海道大学 敷田麻美）世界遺産センター 第 5 回：持続的な漁業は知床、そして地球を守る（道総研栽培水試 鳥澤雅）羅臼 VC	
その他		

番号	主体	名称
	環境省	知床世界自然遺産生態系調査報告会
開催日	平成 23 年 2 月 23 日	
参加人数	約 80 名	
内容	口頭 17 題、及びポスター 5 題の計 22 題の発表がなされた。口頭ではエゾシカ、植生、及び希少鳥類を含む陸上生態系に係わる発表が 9 題、海生哺乳類や海鳥類を含む海洋生態系に係わる発表が 5 題、国立公園の適正利用に係わる発表が 3 題であった。ポスターでは、羅臼岳の生物相、エゾシカの遺伝子分析、鯨類の分布、及びサケ科魚類の移動生態に係わる調査結果について発表された。	
その他		

番号	主体	名称
	林野庁	羅臼湖ツアー
開催日	平成 22 年 7 月 9 日	
参加人数	29 名	
内容	地域住民を対象に、世界自然遺産地域となった羅臼湖周辺の貴重な森林生態系の保全等について高山帯の森林や植物の観察から学び、自然環境の保全に対する意識の醸成を図ることを目的に開催。	
その他	来年度も継続予定。	

番号	主体	名称
	林野庁(知床森林センター)	地域住民を対象とした森林体験教室等の開催
開催日	平成22年6月12日～平成23年3月5日	
参加人数	204名	
内容	<p>自然観察や木工などの様々な森林とのふれあいから、森林生態系や森林保護、森林を利用する意義などを理解してもらうために開催。</p> <p>6月12日(土) 幻の沼「ボンホロ沼」周辺の森林散策とシイタケほだ木作り 7月14日(水) 羅臼湖三の沼森林散策とデジカメ撮影 8月4日(水) 夏休み企画「森の恵みとふれあう木工教室」 9月4日(土) 樹木医と歩くオシンコシンの森林散策 10月3日(日) 知床で森づくり・森林散策と植樹活動 10月16日(土) 知床の森の恵みでジャム作り&ツリーイング体験 12月4日(土) 森の恵みでクリスマスリースを作ろう 2月9日(水) 冬ならでは!! 静寂の森を歩くスキーで散策しよう 3月5日(土) 森林散策をしながら知床を撮ろう～フレベの滝周辺～</p>	
その他	来年度も継続予定。	

番号	主体	名称
	北海道新聞社 北海道	知床世界自然遺産登録5周年記念フォーラムの開催
開催日	平成22年7月14日	
参加人数	関係者、地域住民ほか400名	
内容	「知床の明日を考える」をテーマに、旭山動物園前園長 小菅正夫氏による基調講演およびパネル討論を実施した。	
その他		

番号	主体	名称
	北海道	知床教室の開催
開催日	平成23年1月27日	
参加人数	1クラス35名	
内容	札幌市内の小学校1校で、知床の素晴らしさや保全の大切さを伝える出前授業を実施した。	
その他	来年度も要望があれば対応する。	

番号	主体	名称
	羅臼町	羅臼町内の学生を対象としたイベント
開催日		
参加人数		
内容	<p>第28回ふるさと少年探検隊(7月29日～8月3日) 町内小学生から中学生を対象に相泊から海岸線を踏破する野外体験事業を羅臼町教育委員会と子ども会育成協議会の共催で実施し、24名が参加。</p> <p>ふるさと体験教室 地元の自然を楽しみながら学ぶことを目的に羅臼町教育委員会が主催。10回実施し、延べ195人の地元小学生が参加。</p> <p>オジロ・オオワン観察会 羅臼町教育委員会主催事業。海上よりオジロワシ、オオワン、アザラシ等を観察。天然記念物や生態系に対する理解を深める。</p>	
その他	来年度も継続予定。	

番号	主体	名称
14	羅臼町	羅臼地区中高一貫教育
開催日		
参加人数		
内容	<p>中学から高校の6年間を連携してきめ細かな授業を目指す。 カリキュラムの中には、知床の自然環境や水産業、観光などを通じた人間との関わりについての課程を設け、世界遺産登録地域に住む住民としての誇りをもてる人材の育成を図る。</p>	
その他	来年度も継続予定。	

番号	主体	名称
15	実行委員会	知床雪壁ウォーク 知床紅葉ウォーク
開催日	平成22年4月18日、10月2日	
参加人数	775名	
内容	<p>知床雪壁ウォーク 知床横断道路では春が近づくとゴールデンウィーク前の開通をめざし、北海道開発局による除雪作業が始まる。この一部を前年同様に開放し、雪に覆われた羅臼岳を望みながらウォーキングを楽しむとともに除雪作業を見学。自然保護と道路維持の大切さを知ることを目的に実施。 4/18に開催し、484名が参加した。</p> <p>知床紅葉ウォーク 知床横断道路を歩きながら、大自然が織り成す紅葉の素晴らしさを味わうとともに、貴重な自然の保全意識の高揚を図ることを目的に実施。 10/2に開催し、291名が参加した。</p>	
その他	来年度も継続予定。 実行委員会(斜里町、羅臼町、知床斜里町観光協会、知床羅臼町観光協会、読売新聞北海道支社)	

②普及啓発資料

番号	主体	名称	概要	備考
	北海道	山岳トイレ問題に関する普及啓発資料作成・配布	携帯トイレの普及啓発のため、リーフレットを作成	継続
	北海道開発局	知床横断道路「今日の知床峠」、「通行規制情報」のHP掲載	釧路、網走開発建設部HPにおいて知床横断道路の通行規制情報を掲載している。	継続

4. 各種会議等の開催状況

(1) 知床世界自然遺産地域連絡会議

	開催日時	開催場所	議題

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。
<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME>会議資料>地域連絡会議

①カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

	開催日時	開催場所	議題

(2) 知床世界自然遺産地域科学委員会

①科学委員会

	開催日時	開催場所	議題

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。
<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME>会議資料>科学委員会+各WG

②エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ

	開催日時	開催場所	議題

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。
<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME>会議資料>科学委員会+各WG

③海域ワーキンググループ

	開催日時	開催場所	議題
平成22年度第1回	平成23年度2月22日(火) 15:00~	かでの2・78階特別会議室	・多利用型統合的 ^{とく} 海域管理計画の見直しについて ・適正利用・エコツーリズム検討会議からの報告 ・海洋生物多様性保全戦略について ・海域管理計画定期報告書について ・その他

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。
<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME>会議資料>知床世界自然遺産地域科学委員会

④河川工作物アドバイザー会議

	開催日時	開催場所	議題
平成22年度第1回	平成23年1月25日(火) かでの2・7	かでの2・7	・平成22年度の河川工作物改良状況について ・平成22年度の遡上モニタリングの結果について

⑤ヒグマ保護管理方針検討会議

	開催日時	開催場所	議題

(3) 適正利用・エコツーリズム検討会議

	開催日時	開催場所	議題

①カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

	開催日時	開催場所	議題

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。
<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME>会議資料>カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡会

②知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討会

	開催日時	開催場所	議題

③羅臼湖会議

	開催日時	開催場所	議題

④カムイワッカ湯の沢利用対策連絡協議会

	開催日時	開催場所	議題

※ 会議及び会議記録は非公開である。会議に関する問い合わせは事務局（斜里町経済部商工観光課）まで。

(4) 知床^{とわ}永久^{もり}の森林づくり協議会

	開催日時	開催場所	議題
森林づくり活動推進のための団体設立準備会	平成22年6月16日(水) 10:00~16:00	知床国有林内	・団体の活動内容等について ・活動候補地について ・その他
知床永久の森林づくり協議会(新団体)設立総会	平成23年3月14日(月) 10:00~12:00	知床森林センター	・規約(案)について ・役員体制(案)について ・活動計画(案)について ・予算(案)について

(5) 知床エコツーリズム推進協議会

	開催日時	開催場所	議題

VI 平成 22 年度 管理実施の総合評価

(6) 知床五湖の利用のあり方協議会

	開催日時	開催場所	議題

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。
<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME>会議資料>利知床五湖の利用のあり方協議会

(8) しれとこ 100 平方メートル運動地森林再生専門委員会

	開催日時	開催場所	議題

※ 会議は公開で開催されている。会議に関する問い合わせは事務局（斜里町総務環境部環境保全課）まで。

(11) 知床世界遺産施設等運営協議会

	開催日時	開催場所	議題

※ 会議に関する問い合わせは環境省釧路自然環境事務所まで。

(12) 「知床半島海岸ゴミ回収業務」検討会議

	開催日時	開催場所	議題

※ 会議に関する問い合わせは環境省釧路自然環境事務所まで。